

STAR

自走マニユアスプレッダ

取 扱 説 明 書

製品コード
型 式

K93382
JMS2500MH

K93400
JMS2500MH-HK

製品コード
型 式

K93383
JMS2500WH

K93401
JMS2500WH-HK

製品コード
型 式

K93381
JMS2500SH

K93399
JMS2500SH-HK

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIアグリテック

はじめに

- このたびは、自走マニュアルスプレッドをお求めいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、正しい取り扱い方と日常の点検、整備について記載してあります。
この取扱説明書およびエンジン取扱説明書をよくお読みになって、充分ご活用いただき、いつまでもご愛用ください。また、オプション装着の場合は各々の取扱説明書もごらんください。
- お読みになった後はいつでも取り出せるように保管し、わからないことがあったときにお読みください。
- 自走マニュアルスプレッドを貸与または譲渡される場合には、取扱説明書も添付しておわたしてください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、お買上げの販売店にご注文ください。
- 下記のマークのついた項目は、安全上、特に重要な項目ですので、必ず守ってください。



—— この項目を守らなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



—— この項目を守らなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



—— この項目を守らなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。

[取扱いの注意] —— 操作上特に注意すべきことや、本機固有の事項ならびに、守らないと本機の性能、寿命に影響をおよぼす事項を示します。

- なお、品質、性能向上のため、部品の変更を行う場合があります。その際、本書の内容と一部異なる場合がありますのでご了承ください。

• 型式名について

ビータアタッチメント形状により型式名の末尾が変わります。

JMS2500MH(-HK)、横型ビータ付き

JMS2500WH(-HK)、縦型ビータ付き

JMS2500SH(-HK)、ディスクビータ付き

目 次

■ 安全に作業するために	3
■ サービスについて	11
■ 本製品の使用目的について	11
■ 仕様諸元	12
■ 付属部品	13
■ 開梱のしかた	13
■ 各部の名称	14
■ 安全銘板の張り付け位置	16
■ 運転と操作	17
1. スイッチとメータの取扱い	17
2. 運転装置の取扱い	21
3. DPFの取扱い	24
3.1 DPFの概要	25
3.2 DPF再生について	25
3.3 DPF自動再生方法	26
3.4 DPF手動再生方法	27
3.5 DPF異常時の警告レベルと処置	28
■ 運転要領	29
1. 新車の運転	29
2. 作業前の点検	29
3. エンジンの始動	32
4. エンジンの停止	33
5. 発進	33
6. 停止	34
7. 変速	34
8. 旋回	35
9. 坂道走行	35
10. ディスクブレータのチルト操作	36
11. 散布制御部品について	36
12. 運転中の注意事項	38
■ 堆肥散布作業	39
1. 堆肥の積み込み	39
2. 散布量の調節	39
3. 散布方法	41
■ 格納	42
■ トラックによる運搬	42
1. 搭車	43
2. 降車	43
■ 点検と整備	44
1. ボルト、ナットのゆるみ	44
2. 車体の損傷	44
3. ステアリングレバーの調整	44
4. ローラチェーンの張り	45
5. クローラの調整	46
6. トラックローラ	46
7. フロアコンベアチェーンの張りと交換	46
8. フロアコンベアギアボックスの調整	47
9. フロアコンベアシャープピンの交換	47
10. 燃料ホース	48

1 1. 電気系統	48
1 2. 油圧系統	49
1 3. エンジン	52
1 4. 給油脂	58
1 5. 点検整備基準	60
■ 故障と対策	62

■安全に作業するために

ここに記載されている注意事項を守らないと死亡を含む傷害事故や、機械の破損を生じるおそれがあります。

●全般の注意事項

▲警告 こんな時は運転しない

過労、病気、薬物の影響その他の理由により、作業に集中できないとき。
酒を飲んだとき。
妊娠しているとき。18才未満のひと。

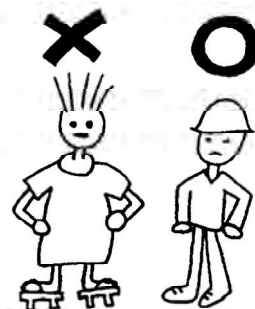
★守らないと
思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



▲警告 作業に適した服装をする

すべりやすいはきもの、だぶついた服装、腰てぬぐい等は禁止です。
ヘルメット、滑り止めのついた靴等、作業に適した服装をしてください。

★守らないと
機械に巻き込まれたり、転倒してけがをするおそれがあります。



▲警告 機械を貸す時は取扱いを説明する

取扱い方法をよく説明し、作業前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

★守らないと
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



▲警告 マニユアスプレッダに人を乗せない

荷台等に人を乗せないでください。

★守らないと
転落事故等思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



▲警告 使用目的以外の作業に使用しない

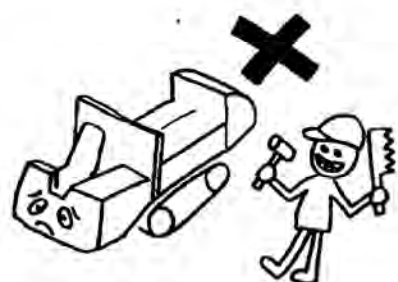
土砂の散布や他車の牽引等、本製品の使用目的以外の作業に使用しないでください。

★守らないと
事故、けが、機械の故障をまねくおそれがあります。

▲警告 機械の改造禁止

指定以外のアタッチメントを取り付けしないでください。
分解や改造をしないでください。

★守らないと
事故、けが、機械の故障をまねくおそれがあります。



▲注意 日常点検、定期点検整備を行う

日常点検、定期点検を行ってください。

★守らないと
整備不良による事故、けが、機械の故障をまねくおそれがあります。



▲注意 公道走行禁止

道路運送車両の認定を受けていません。
公道の乗車走行はできません。

★守らないと
道路交通法違反です、事故を引き起こすおそれがあります。

●作業前の注意事項

⚠危険 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時はくわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

★守らないと
燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。



⚠危険 給油、注油はエンジンがさめてから

エンジン回転中や、停止直後は絶対に給油、注油しないでください。

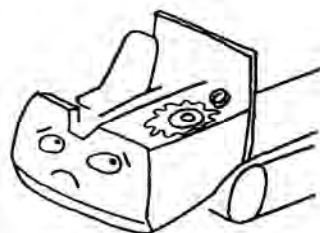
★守らないと
燃料等に引火し、火災をおこすおそれがあります。



⚠危険 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふきとる

給油したときは燃料キャップを確実にしめ、こぼした場合はきれいにふきとってください。

★守らないと
火災事故を引き起こすおそれがあります。



⚠危険 燃料もれに注意

燃料ホース等の破損があると燃料もれをおこします。必ず点検してください。

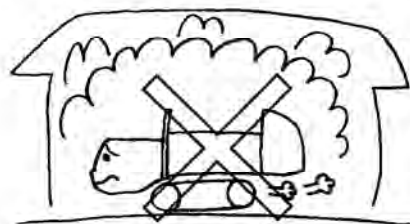
★守らないと
火災事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告 換気の悪い場所でエンジンをかけない

排気ガスは有毒です。
換気の悪い車庫や屋内でエンジンを始動しないでください。

★守らないと
排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故になるおそれがあります。



▲警告 エンジン始動は必ずシートにすわって行う

エンジンの始動は必ずシートにすわり、
周囲の安全を確認し、
いつでも運転操作ができる状態で行ってください。

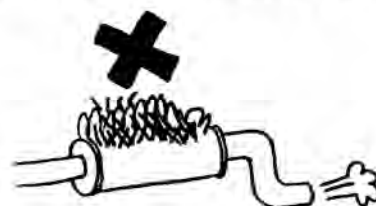
★守らないと
正常な運転ができずに傷害事故を引き起こすおそれがあります。



▲警告 DPF、テールパイプ、エンジンまわりのゴミは取り除く

DPF本体及びテールパイプ、エンジンまわりに
わらくず、ゴミなどの可燃物が無いことを
作業前に点検してください。

★守らないと
火災事故や部品の溶解を引き起こすおそれがあります。



▲警告 点検整備中はエンジン停止

点検、整備または清掃するときは
必ずエンジンを停止してください。

★守らないと
傷害事故を引き起こすおそれがあります。



▲注意 作業前点検を行う

作業前に点検をしてください。
車体、油圧配管に異常がないか
燃料、エンジンオイル、冷却水、作動油は充分か
ピータ、フロアコンベアの動きに異常がないか。

★守らないと
事故を引き起こしたり、機械を損傷するおそれがあります。



▲注意 燃料は JIS2 号軽油を使用する

JIS2号軽油（寒冷時は3号軽油または特3号軽油）を使用して下さい。
バイオディーゼル燃料や、バイオディーゼル燃料を混合した軽油は使用しないでください。

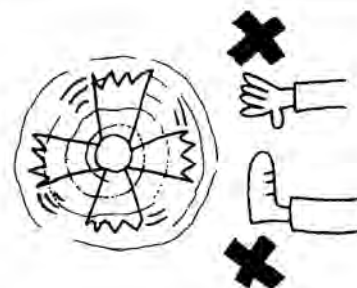
★守らないと
軽油以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。必ず指定の燃料を使用してください。

●作業時の注意事項

⚠危険 回転中のビータには近づかない

回転中のビータには絶対に近づかないでください。

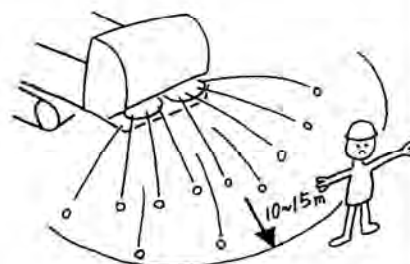
★守らないと
巻き込まれ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



⚠危険 堆肥散布範囲は立ち入り禁止

堆肥や、堆肥の中の石などが飛散するので、後方および左右10～15mには人を立ち入らせないでください。

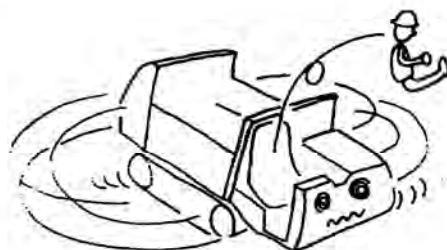
★守らないと
人に当たって死亡や傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告 高速で急旋回しない

高速走行中は急旋回しないでください。

★守らないと
転落や接触により傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告 傾斜地や悪路は低速走行する

傾斜地や悪路では副変速レバーを「低速」にし、低速で走行してください。

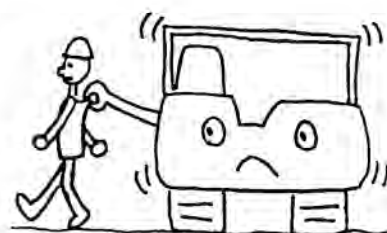
★守らないと
傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告 機械から離れる時はエンジン停止

機械から離れる時は必ずステアリングレバーをニュートラルにしたのちエンジンを停止してください。

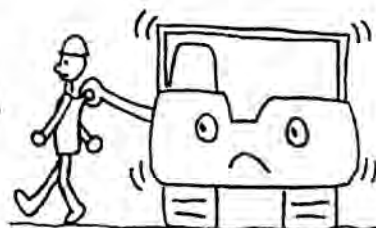
★守らないと
暴走事故等を引き起こすおそれがあります。



▲警告 DPF再生中は、機械から離れない

DPF再生中は、機械から離れず、
機械の様子を確認し、機械周辺に人が近づかないようにして下さい。

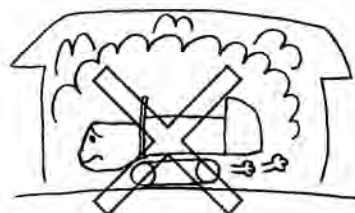
★守らないと
機械の暴走事故や、やけどなどを負うおそれがあります。



▲警告 DPF再生は、換気のいい場所で行う

排気ガスは有毒です。換気の悪い車庫や屋内では
DPF自動再生禁止モードを使用したり、
換気のいい場所でDPF手動再生を行ってください。

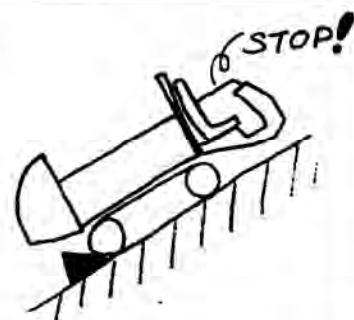
★守らないと
排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故になるおそれがあります。



▲警告 傾斜地での駐停車は必ずエンジン停止

傾斜地で駐停車する時は必ずエンジンを停止し、
歯止めをしてください。
エンジンを停止すると自動的に駐車ブレーキが
働きます。

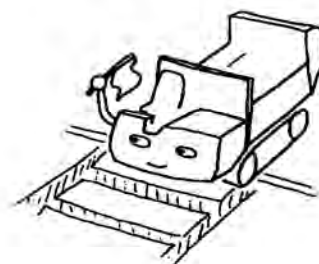
★守らないと
暴走事故等を引き起こすおそれがあります。



▲警告 農道走行中は安全運転する

周囲に充分注意して
安全運転してください。

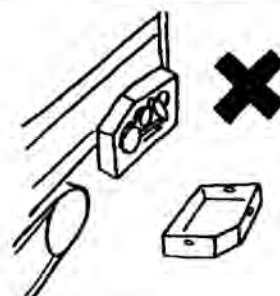
★守らないと
事故を引き起こすおそれがあります。



▲警告 取り外したカバー類は必ず取り付ける

点検整備等で取り外したカバー類は
必ず取り付けてから作業してください。

★守らないと
機械に巻き込まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。



▲注意 過積載はしない

最大積載量内で作業してください。

★守らないと
機械の破損により傷害事故を引き起こすおそれがあります。



▲注意 不用意なアイドリング運転は行わない

不用意なアイドリング運転は行わないで下さい。

★守らないと
DPF内にPM（ススなど）が堆積しやすくなり、
故障の原因となることがあります。

●トラックによる運搬時の注意事項

▲警告 強度、長さ、幅の充分あるあゆみ板を使用する

積み込み、積降しをする時は、平坦で安全な
場所で、トラックのエンジンを止め、駐車
ブレーキをかけ、歯止めをしてください。
強度、長さ、幅の充分なあゆみ板を使用してください。

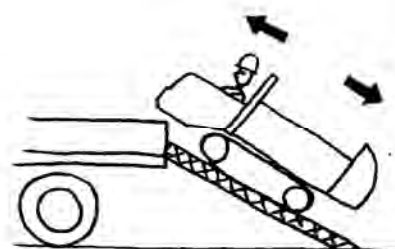
★守らないと
転落等の事故を引き起こすおそれがあります。



▲警告 登りは前進、下りは後進で行う

トラックへ積み込む時は前進
降ろす時は後進で行って下さい。

★守らないと
バランスをくずし、転落等の事故を引き起こすおそれがあります。

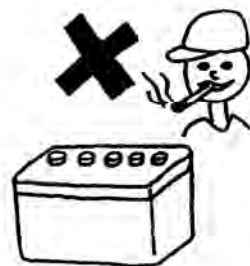


●作業後の注意事項

⚠危険 バッテリー周辺は火気厳禁

バッテリーの点検、充電時は火気厳禁です。

★守らないと
バッテリーに引火、爆発して、やけど等を引き起こすおそれがあります。



⚠危険 バッテリー液は体に付けない

バッテリー液は希硫酸で危険です。
皮膚や服に付けないでください。

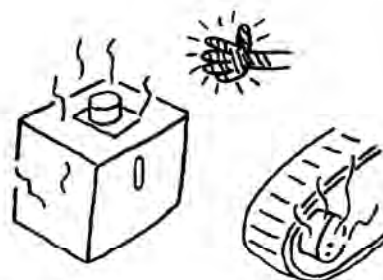
★守らないと
やけどをしたり、服が破れるおそれがあります。



⚠警告 油圧の高温部にさわらない

作業中は油圧作動油が発熱して各部が
熱くなっています。
特にオイルタンク、走行モータに
さわらないでください。

★守らないと
やけどをするおそれがあります。



⚠警告 エンジンの高温部にさわらない

運転中、停止直後のエンジン、マフラー、ラジエータは
高温ですのでさわらないでください。

★守らないと
やけどをするおそれがあります。



■サービスについて

アフターサービスについて

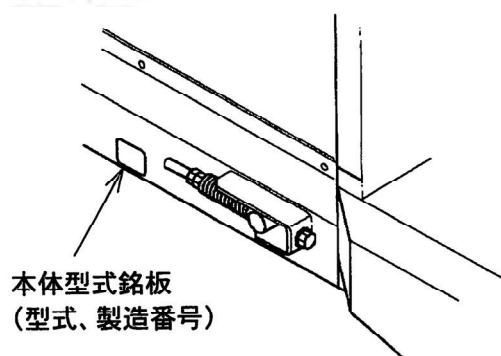
機械の調子が悪いときは62ページの「故障と対策」に従って、点検してください。
なお不具合がある場合はお買上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

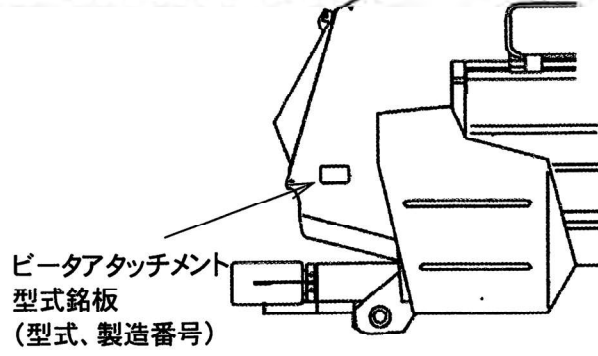
- ・型式
- ・製造番号
- ・購入年月日
- ・オプションの有無
- ・使用時間
- ・使用状況
- ・不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく

覚 え	
	本 体
型 式	JMS2500
製 造 番 号	
購 入 年 月 日	年 月 日
オ プ シ ョ ン	

荷台右側



ビータアタッチメント右側



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。

ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

■本製品の使用目的について

本マニユアスプレッダは、主として湿田、軟弱地、傾斜地、狭い圃場など牽引式のマニユアスプレッダで作業できない場所での堆肥散布を目的とした、クローラ方式の自走マニユアスプレッダです。

堆肥散布や堆肥運搬以外に使用しないでください。

また、改造は行わないでください。

■仕様諸元

型 式 名			JMS2500SH(-HK)	JMS2500WH(-HK)	JMS2500MH(-HK)
ビータアタッチメント			ディスクビータ (逆転機能付)	縦型ビータ 前傾4本ビータ	横型ビータ 2段ビータ (逆転機能付)
最大積載質量			kg2500		
最大積載容量			m ³ 3.2		
機 体 寸 法	全 長	mm	4560	4290	4400
	全 幅	mm	1815	1780	1810
	全 高	mm	2010	2010	2010
地 上 高	側 板 高 さ	mm	1365		
	床 面	mm	835		
最低地上高			mm280		
荷台寸法 長さ×幅×高さ			mm2760 × 1480 × 535		
車両質量			kg2280	2290	2230
クローラ 接地長×幅			mm1725 × 350		
輪 距			mm1150		
接 地 圧 kPa {kgf/cm ² }			19~39 {0.19~0.40}	19~39 {0.19~0.40}	18~38 {0.18~0.39}
最少回転半径			m2.65	2.48	2.56
散布幅			m1.5 ~ 10 (可変)	4 ~ 7	2 ~ 3
フロアコンベア速度 m/分	1 速		0.54		
	2 速		1.08		
	3 速		1.62		
エ ン ジ ン 型 式			イセキ E3FH型 4サイクル水冷3気筒ディーゼルエンジン		
総排気量			cm ³ 1826		
最大出力			kw{PS}25.7 {35}		
走行速度 km/時	副変速低		0 ~ 4.8 (前後進無段変速)		
	副変速高		0 ~ 8.3 (前後進無段変速)		

オプションアタッチメント：

- ・キャビンアタッチ AJC2530 (工場オプション) ヒータ付き防寒キャビン
- ・クレーンアタッチ AJK2500H (工場オプション) 最大吊り上げ質量
480kg
フレコン入り堆肥用
- ・パワーゲートアタッチ AJG2500H (工場オプション) 運搬時堆肥こぼれ防止用
- ・微量散布アタッチ AJS2500H (工場オプション) 成分濃厚散布物の
少量散布用

■付属部品

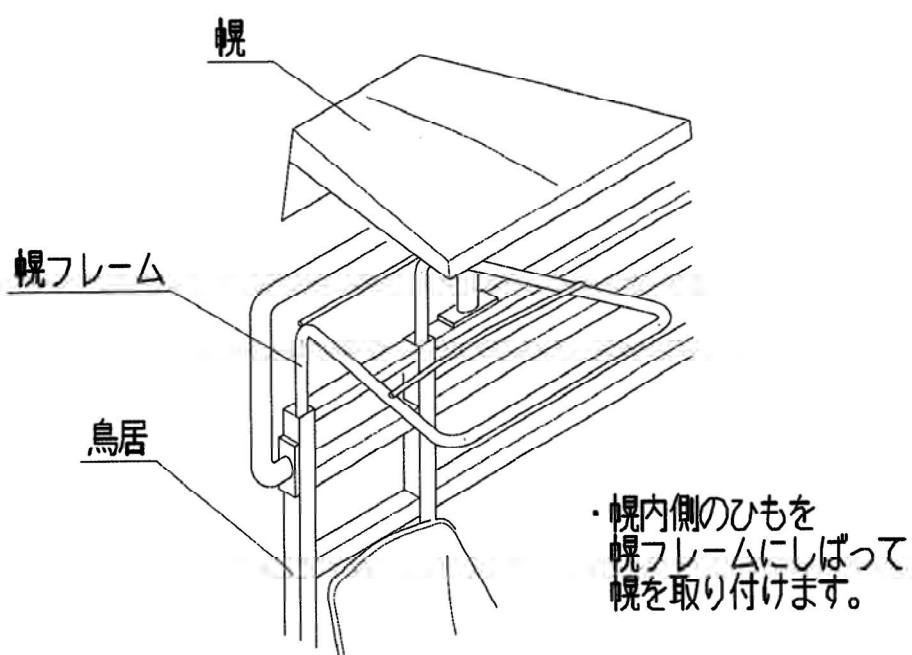
標準付属部品として次のものが付属しています。

・スパナ 30	— — — — —	1
・グリースポンプ	— — — — —	1
・シャープピン（スペア、本機に格納、47ページ参照）	— — — — —	3
・JMS2500シリーズ取扱説明書（本書）	— — — — —	1
・エンジン取扱説明書	— — — — —	1

■開梱のしかた

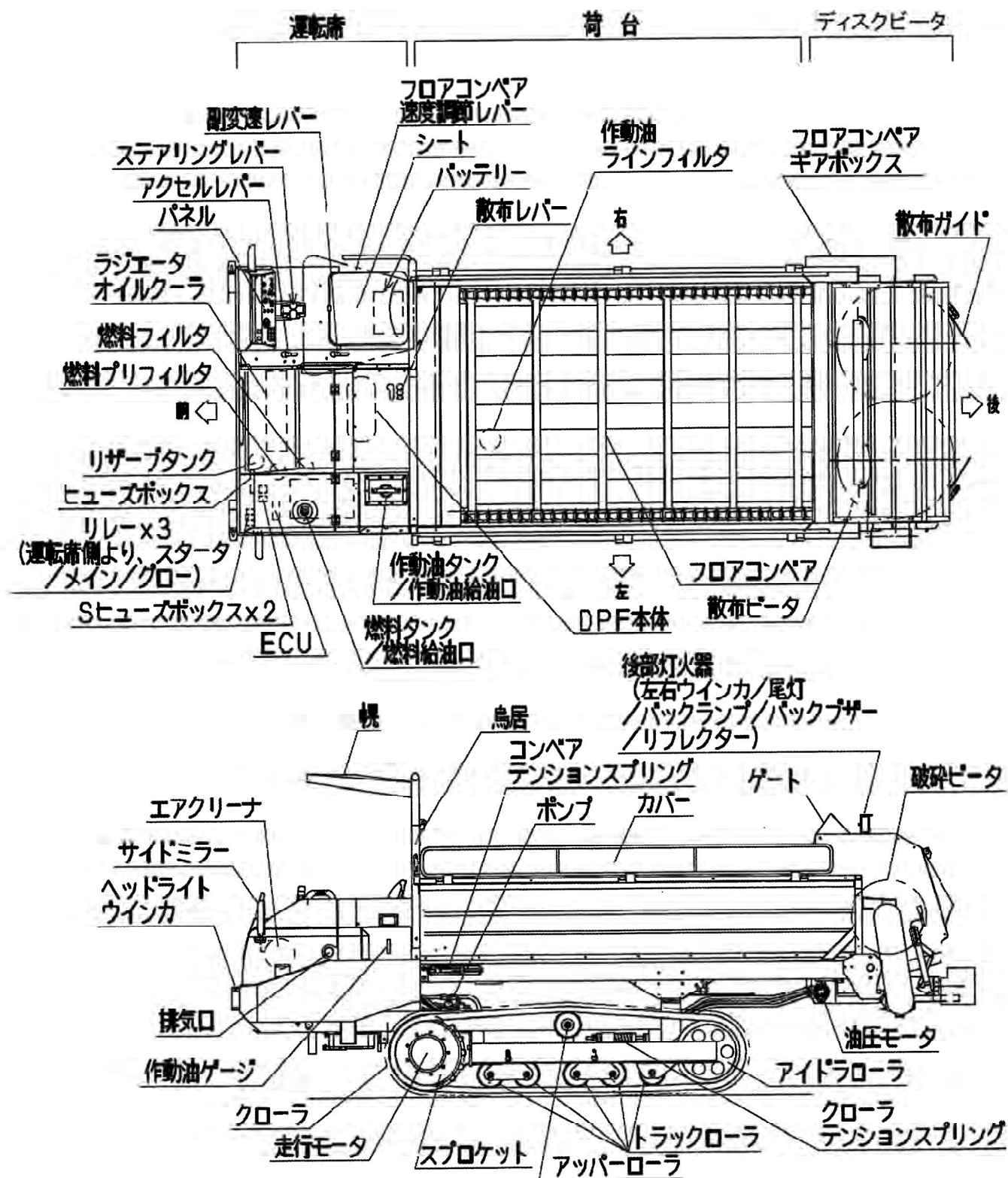
下記の部品は輸送の都合上装着してありません。使用前に取り付けてください。

（１）幌

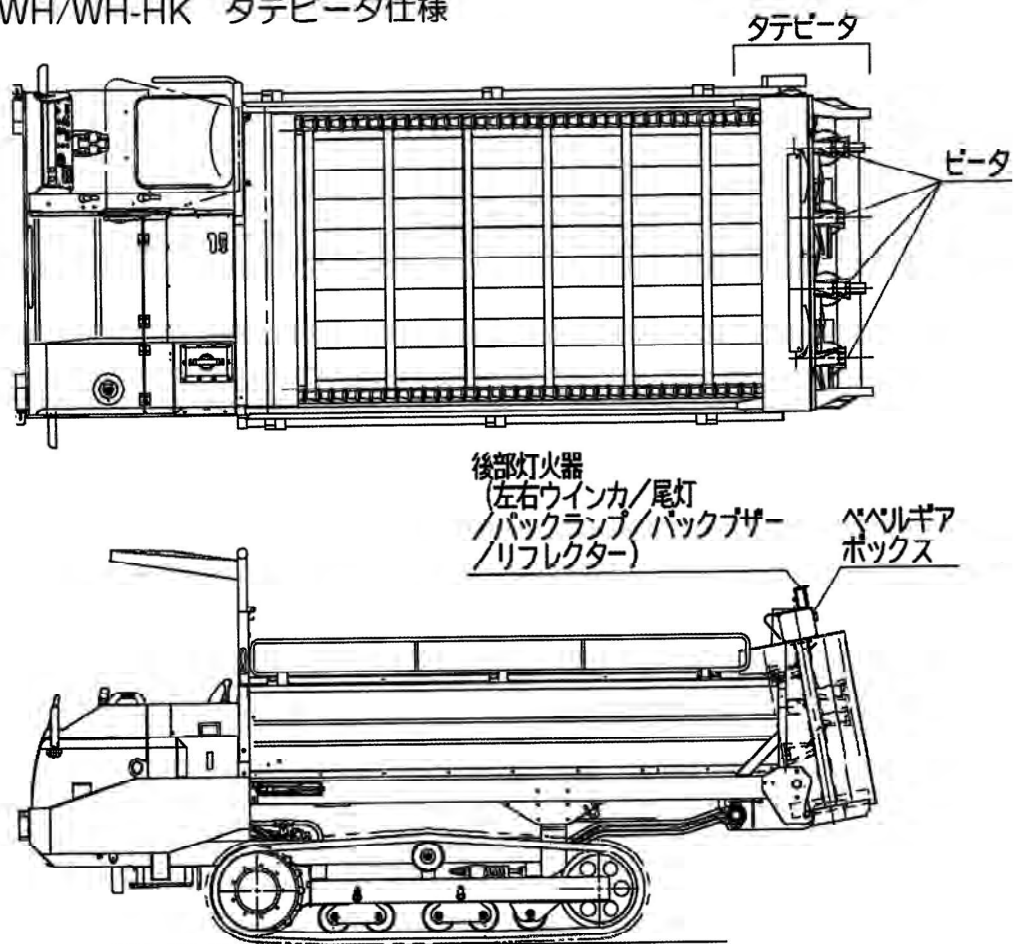


■各部の名称

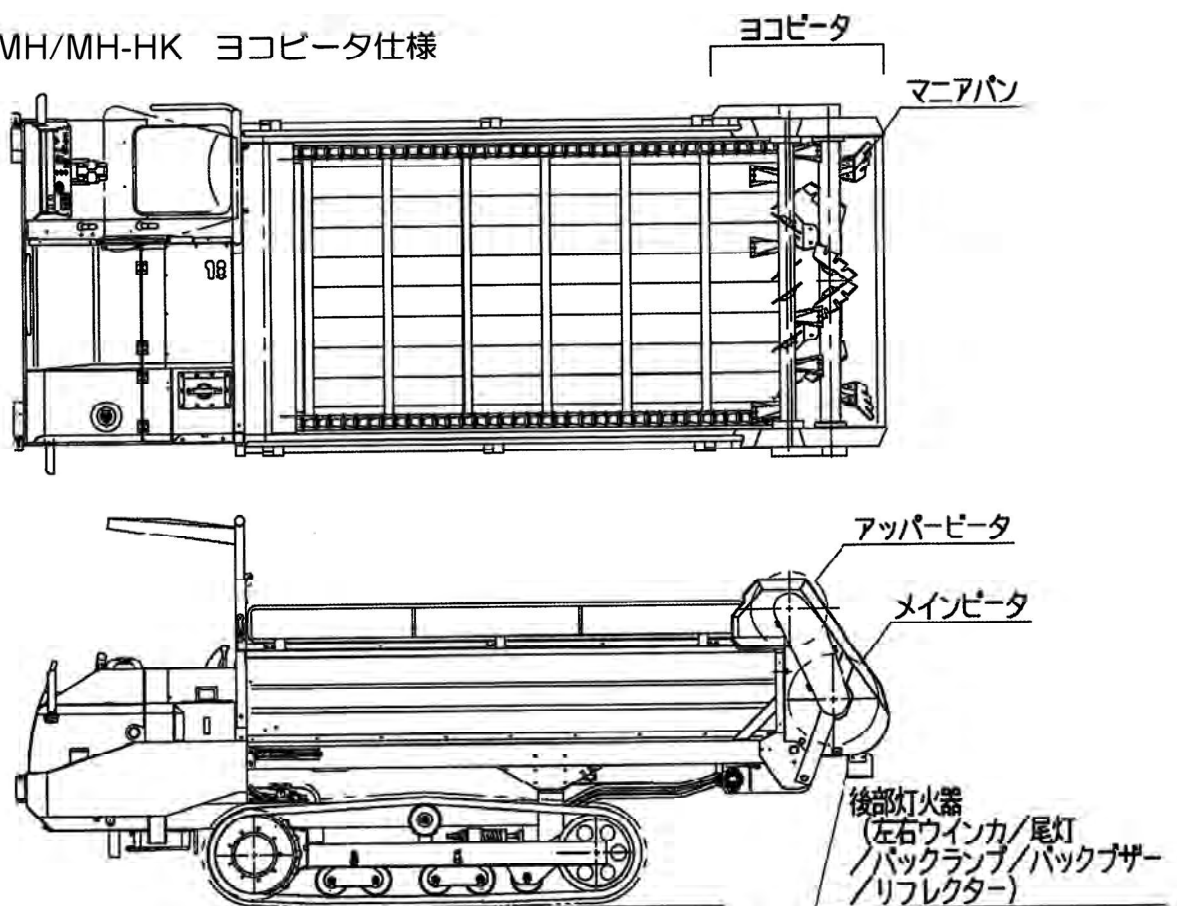
JMS2500SH/SH-HK ディスクビータ仕様



JMS2500WH/WH-HK タテビータ仕様

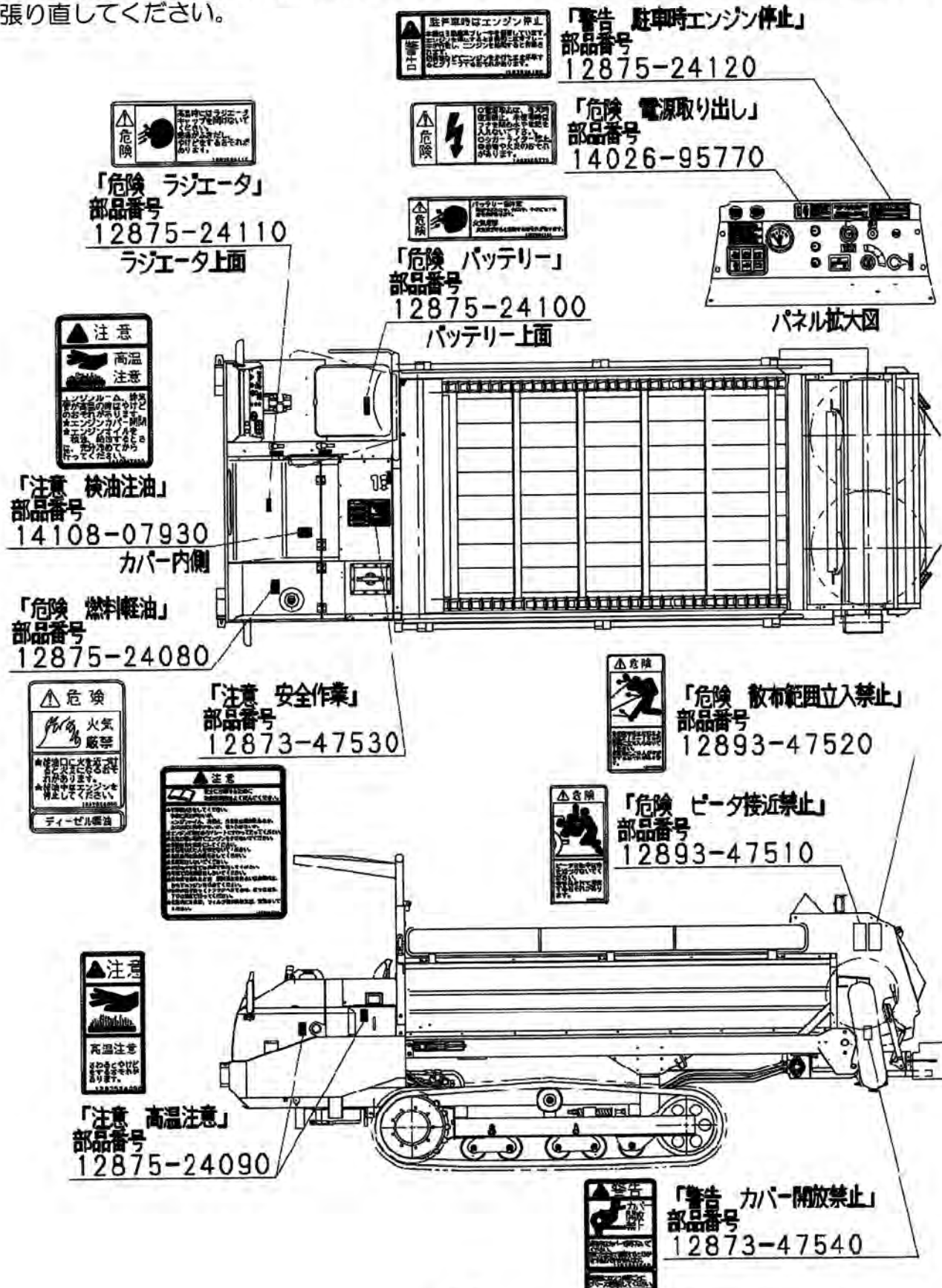


JMS2500MH/MH-HK ヨコビータ仕様



■安全銘板の張り付け位置

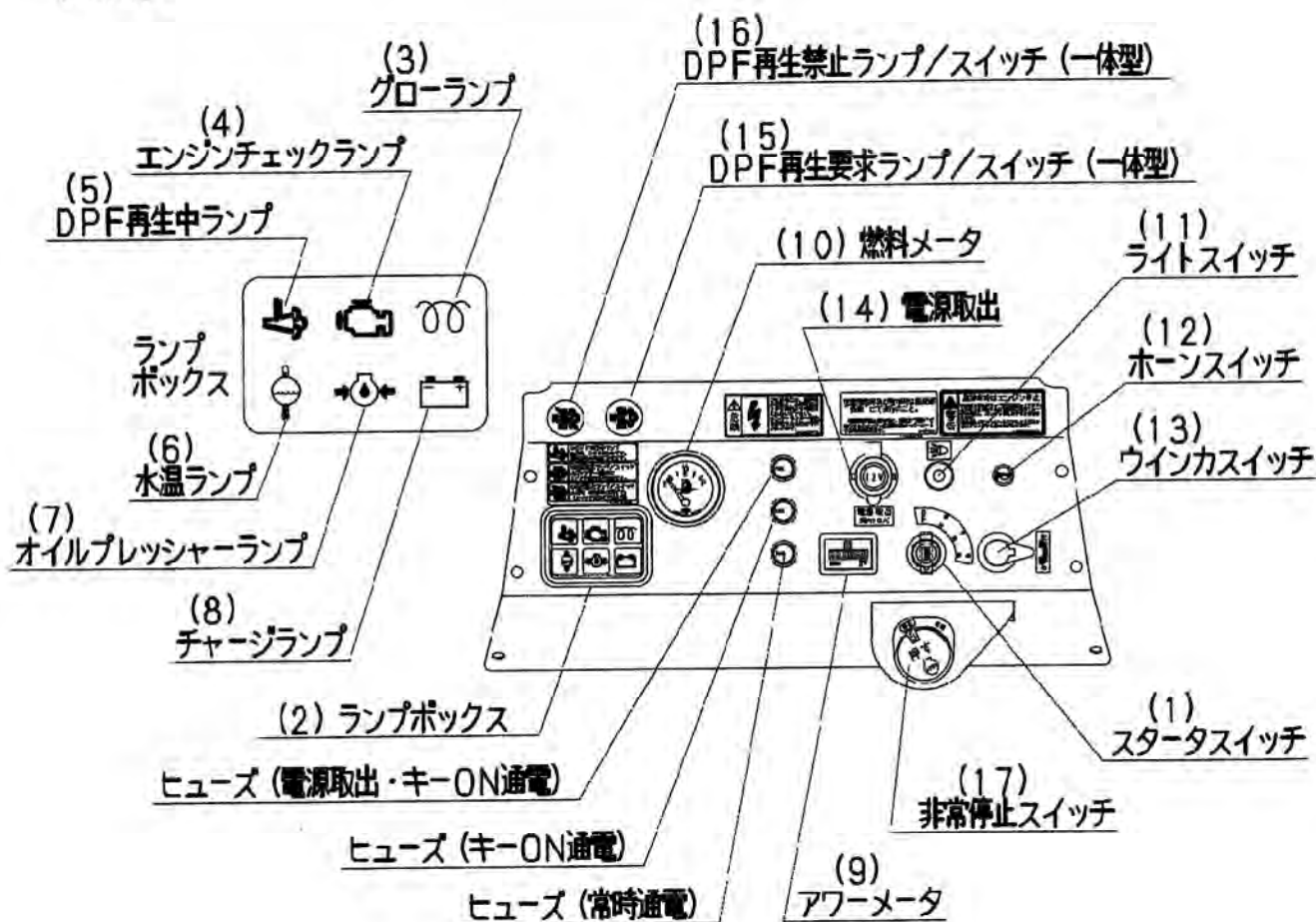
安全に作業していただくための安全銘板の張り付け位置、名称、部品番号を示します。
安全銘板はいつも汚れや破損のないようにし、もし破損した場合は新しいものを購入して張り直してください。



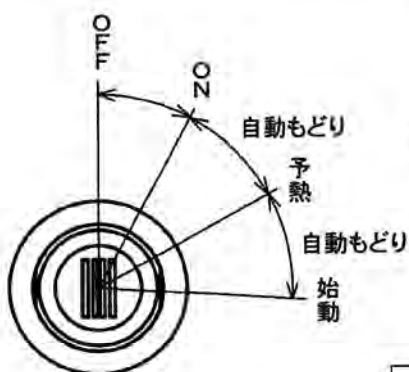
■運転と操作

1. スイッチとメータの取扱い

パネル



(1) スタータスイッチ



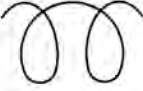
1. 「ON」または「予熱」にすると、グローランプが点灯しグローが開始されます。
電装部品に通電され作動できるようになります。
2. グローランプが消灯したら、「始動」にします。
セルモータが回転してエンジンが始動します。
エンジンが始動したら、すぐにキーから手を離します。
3. 「OFF」位置にすると、エンジンが停止します。
「OFF」位置でキーの抜き差しができます。

[取扱いの注意]

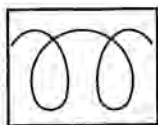
- ・ヘッドライト、テールランプ、ホーンは「OFF」位置でも作動します。
- ・ステアリングレバーが、ニュートラルでないと、セルモータは回りません。
- ・使用後はキーを抜いてください。

(2) ランプボックス

ランプボックスでエンジンの状態を確認することが出来ます。
 正常な機械ではキー操作したときにランプボックス表示が下表のようになります。

キー操作とランプボックス表示				
	キーOFF	キーON 直後	キーON 数秒後	始動後
ランプ ボックス 表示	点灯なし	 グローランプ点灯  チャージランプ点灯	 チャージランプ点灯	正常運転中 点灯なし

(3) グローランプ



エンジンの予熱状態を示します。
 スタータスイッチを「ON」または「予熱」に回すと、グローランプが点灯します。そのままスタータスイッチを保持し、グローランプが消灯すると、予熱完了です。予熱時間はエンジンの温度に応じて自動的に変わります。

(4) エンジンチェックランプ



エンジンやコンピュータに故障がないか示します。
 故障がなければ消えています。

(5) DPF 再生中ランプ



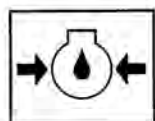
DPF 自動再生中、または DPF 手動再生中に点灯します。
 詳しくは「運転と操作/3. DPFの取り扱い」を参照ください。

(6) 水温ランプ



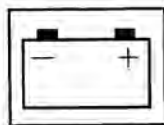
エンジン冷却水温度が適正かどうかを示します。
 水温が高すぎると点灯し、適正であれば消えています。

(7) オイルプレッシャーランプ



エンジン各部に送られているエンジンオイルの圧力が正常かを示します。
 エンジンオイル圧力が低い場合に点灯します。

(8) チャージランプ



充電回路が正常かどうかを示します
スタータスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンが始動して
充電回路が正常に働いていれば消えています。

(9) アワーメータ

運転時間を表示します。時間単位です。
いちばん右の桁は1 / 10時間です。

(10) 燃料メータ

燃料の残量を示します。
針が「F」位置だと燃料タンクが満杯で、「E」位置だと空です。

(11) ライトスイッチ

手前に引くとヘッドライトとテールランプが点灯します。

(12) ホーンスイッチ

押すとホーンが鳴ります。

(13) ウィンカスイッチ



時計回りに回すと右側のウィンカが点灯し、
反時計回りに回すと左側のウィンカが点灯します。

(14) 電源取り出し

スタータスイッチを「ON」にすると12Vを取り出すことができます。
自動車のシガーソケット用充電器などが使用できますが、シガーソケットと
しては使用できません。

(15) DPF 再生要求ランプ/スイッチ



DPF 手動再生が必要なときに点灯し、スイッチを押すと手動再生が開始されます。

詳しくは24ページの「運転と操作/3. DPFの取り扱い」を参照ください。

(16) DPF 再生禁止ランプ/スイッチ



DPF 再生禁止モードにするときに使用します。

また、DPF 再生中の中断時にも使用します。

詳しくは24ページの「運転と操作/3. DPFの取り扱い」を参照ください。

(17) 非常停止スイッチ

緊急時に押すとエンジンが止まります。

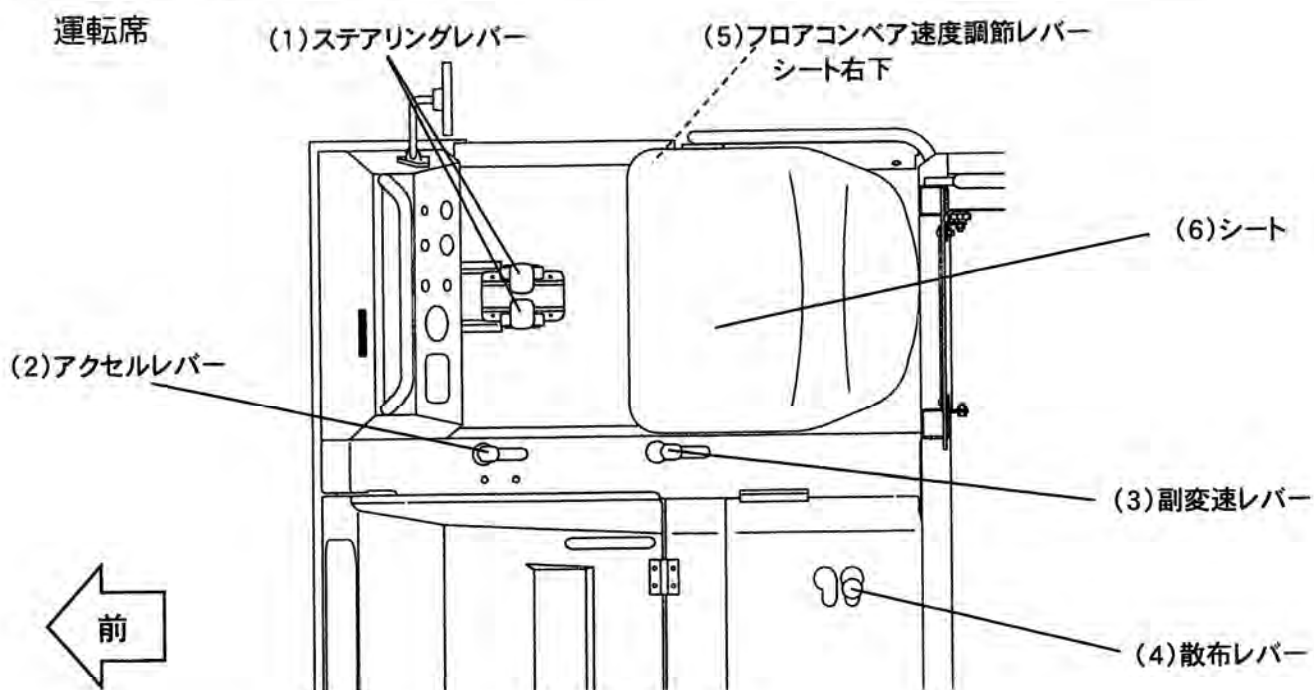
通常は「運転」にしておきます。

リセットするときはスイッチを押しながら右にひねり、引き上げてください。

[取扱いの注意]

・通常のエンジン停止はスタータスイッチで行ってください。

2. 運転装置の取扱い



(1) ステアリングレバー



左右のステアリングレバーを同時に前に押すと前進、手前に引くと後退します。

無段変速ですので、レバーを大きく動かすにつれ、車速が速くなります。

片側のレバーをもどすと、そちら側のクローラの回転が遅くなり旋回します。

左右のレバーを逆方向に動かすと、その場旋回することができます。

レバーをニュートラルにもどすと自動的にブレーキがきき、停止します。

[取扱いの注意]

- ・駐車ブレーキは自動解除式です。エンジンが回転している間、駐車ブレーキは解除されています。エンジンを停止すると駐車ブレーキがかかります。

(2) アクセルレバー



レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がり、前に押すとさがります。

また、任意の回転にできます。

エンジンの始動は「始動」位置で行ってください。

(3) 副変速レバー

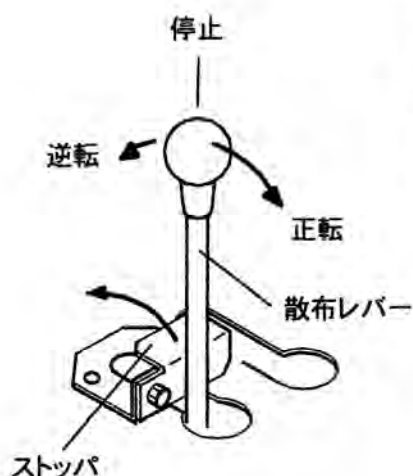


走行速度の範囲を高低２段階に切り換えるレバーです。前に押すと「高速」レンジ、手前に引くと「低速」レンジになります。

[取扱いの注意]

- ・レバーは「高速」側あるいは「低速」側にいっぱい動かしてください。レバーを途中で止めないでください。
- ・堆肥の運搬および散布は「低速」で行ってください。

(4) 散布レバー



散布レバーを操作すると散布装置（ビータ、フロアコンベア）が作動して堆肥散布ができます。

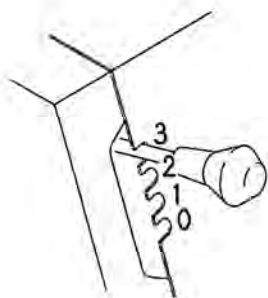
散布レバーを手前に引くとビータが正転し、広幅散布ができます。

ストップパを起こし散布レバーを押すとビータが逆転し、狭幅散布ができます。

[取扱いの注意]

- ・レバーはゆっくり操作してください。
- ・急激な操作はチェーンなどの損傷の原因になります。
- ・逆転するときはストップパを起こしてから散布レバーを操作してください。
- ・正転散布のときはストップパを倒しておいてください。
- ・縦型ビータ仕様は逆転ができません。
- ・フロアコンベアの動きは逆転のときも正転と同じです。

(5) フロアコンベア速度調節レバー

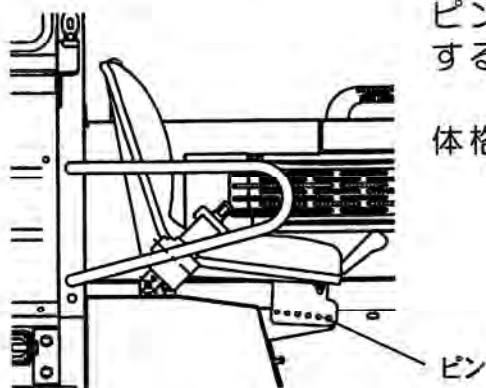


フロアコンベアの速度は3段階に調節できます。
「0」は停止です。
「1」→「3」の順に速度が速くなります。
堆肥の散布量に合わせて調節してください。

[取扱いの注意]

- ・調節するときは、ピータを回転させながら行ってください。
- ・動きが重い時に無理に動かすと調整が狂うことがあります。

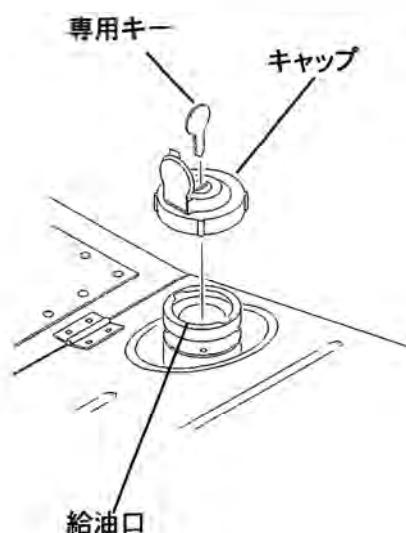
(6) シート



ピンを差し換えると前後6段階にシート位置を調節
することができます。

体格に合わせて調節してください。

(7) 燃料給油口



専用キーでロックを外し左にひねるとキャッ
プが外れます。
キャップをするときは、止まるまで右にひね
り専用キーでロックしてください。

[取扱いの注意]

- ・無理にキャップをひねらないようにしてください。

3. DPFの取扱い

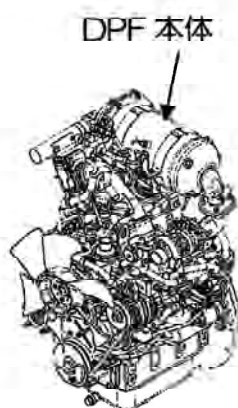
▲警告

- DPF 再生中は、機械から離れないでください。
- DPF 再生処理の前（作業前）に、DPF 本体及びテールパイプの周りに可燃物等が無いことを確認してください。
非常に高温となるため、可燃物の発火、溶解などが起こる可能性があります。
- DPF の手動再生を行う際は、屋外の換気が良く、引火物のない安全な場所で行ってください。
- 換気の悪い場所や、排気管に可燃物が近づく場所で作業をするときには、DPF 再生禁止モードで作業してください。
排気ガス中毒や、火災のおそれがあります。
- DPF 再生中および再生後は、テールパイプおよび周辺部に人を近づけないでください。
非常に高温となるため、やけどのおそれがあります。

▲注意

- DPF は 3000 時間毎に販売店で点検してください。
点検しないと、エンジン出力の低下やエンジン寿命の減少を引き起こします。
- 燃料は軽油を使用して下さい。
バイオディーゼル燃料や、バイオディーゼル燃料を混合した軽油は使用しないでください。
軽油以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。
- エンジンオイルには「シェル リムラ R5LE 10W30」を使用して下さい。
上記以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。
- 不用意なアイドリング運転は行わないでください。
エンジン回転が低いほど排ガス温度が低くなり、DPF 内に PM（ススなど）が堆積しやすくなります。

3.1 DPFの概要



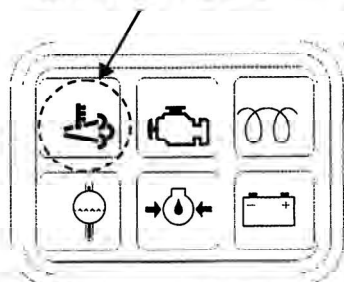
DPF 本体

DPF とは、排ガス中の PM（ススなど）を捕集し、PM を再燃焼させ有害な PM の外気流出を抑える装置です。捕集した PM が多くなると、DPF 内を燃焼させフィルタをリフレッシュさせる必要があり、これを「DPF 再生」と呼びます。

「DPF 再生」には、「自動再生」と「手動再生」の 2 種類があります。

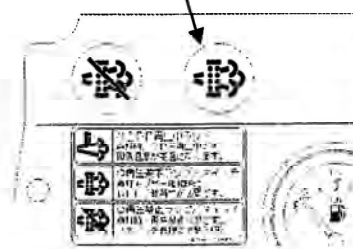
3.2 DPF再生について

DPF 再生中ランプ



(メータパネル内)

DPF 再生
スイッチ



(メータパネル内)

本自走式マニュアルスプレッドは基本的には「DPF 自動再生」にて捕集した PM の再燃焼を行います。

DPF 自動再生

「DPF 自動再生」とは、エンジンの排気ガスから捕集した PM の量を検知し、条件が整うと、自動的に DPF を再生する方式です。

再生中は「DPF 再生中ランプ」が点灯します。

換気の悪い屋内や、排気管に可燃物が近づく場所では 3.3 DPF 自動再生方法 を参照し「DPF 再生禁止」モードで作業してください。

DPF 手動再生

「DPF 自動再生」に必要な条件が整わず、DPF 内に一定の PM が堆積すると、

「DPF 再生スイッチ」が点滅、

「DPF 再生要求ブザー」が断続的に鳴ります。

3.4 DPF 手動再生方法 を参照し、再生を行ってください。

DPF 再生要求
ブザー

(ステアリング
レバー下部)



※高負荷作業または高回転による連続作業を行うほど、DPF 内の温度が上昇し、PM は堆積しにくくなり、再生までの間隔が長くなります。逆に、アイドリング状態や低回転による断続運転での使用は、DPF 内に PM が堆積しやすく、頻繁な再生が必要となるため推奨しません。

3.3 DPF自動再生方法

「DPF 自動再生」は、エンジンの排気ガスから捕集したPMが一定量となり、再生条件が整うと自動的に開始されます。

「DPF 自動再生」が始まると「DPF 再生中ランプ」が点灯します。終了すると「DPF 再生中ランプ」が消灯します。この間、オペレータは作業や走行を中断する必要はありません。



DPF 再生禁止

「DPF 自動再生」が自動で行われないように設定ができます。換気の悪い場所や、排気管に可燃物が近づく場所で作業をするときには、DPF 再生禁止モードで作業してください。

DPF 再生禁止モードは次の手順で設定します。

- 1、「DPF 再生禁止スイッチ」を3秒以上押し続けます。
- 2、「DPF 再生禁止スイッチ」が点灯し、DPF 再生禁止モードとなります。

※通常作業時は DPF 再生禁止モードは使用せず、「DPF 再生禁止スイッチ」が消灯しているか確認して下さい。

※PMの残量が多い場合、「DPF 再生スイッチ」が点滅し続け「DPF 再生要求ブザー」が断続的に鳴ります。

その場合はPMの堆積が増加する前に、「DPF 手動再生」を行ってください。



DPF 自動再生の中断

「DPF 自動再生」が行われている時に、再生を中断する場合は次の手順で行います。

- 1、「DPF 再生禁止スイッチ」を3秒以上押し続けます。
- 2、「DPF 再生禁止スイッチ」が点灯し、再生が中断され DPF 再生禁止モードになります。

DPF 再生禁止モードの解除

再生禁止モード中（「DPF 再生禁止スイッチ」が点灯）、次の手順で解除します。

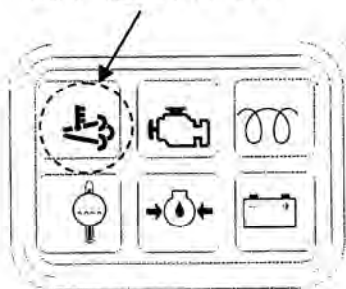
- 1、「DPF 再生禁止スイッチ」を3秒以上押し続けます。
- 2、「DPF 再生禁止スイッチ」が消灯し、再生禁止モードが解除されます。

※キースイッチを OFF にした場合も、再生禁止モードが解除されます。



3.4 DPF 手動再生方法

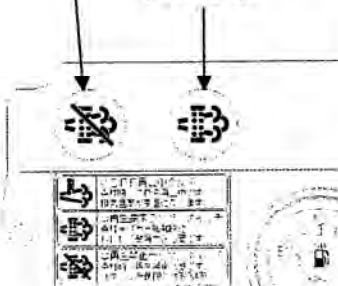
DPF 再生中ランプ



(メータパネル内)

DPF 再生禁止
スイッチ

DPF 再生
スイッチ



(メータパネル内)

DPF 再生要求
ブザー

(ステアリング
レバー下部)



低負荷作業、アイドリング運転が多いと、DPF 自動再生が行えずに PM 捕集量が増え続けるため、手動再生にて強制的に PM を燃焼させる必要があります。

「DPF 再生スイッチ」が点滅し、

「DPF 再生要求ブザー」が断続的に鳴っている、ときは「DPF 手動再生」が必要です。次の手順で「DPF 手動再生」を実施してください

DPF 手動再生の手順

- 1、車両を安全な場所に停車させ、ステアリングレバーを「中立」にしてください。
- 2、エンジンをアイドリング状態にしてください。
- 3、「DPF 再生禁止スイッチ」が点灯している場合は、スイッチを押して消灯させてください。
(DPF 再生禁止モード解除)
- 4、「DPF 再生スイッチ」を3秒以上押し続けます。
- 5、「DPF 再生スイッチ」と「DPF 再生中ランプ」が点灯し、DPF 再生が開始されます。
- 6、再生中はアクセル操作や、ステアリングレバー中立を解除しないで、車両から離れないでください。
(通常は40分ほどで終了します。)
- 7、再生が完了すると「DPF 再生スイッチ」と「DPF 再生中ランプ」が消灯します。

DPF 手動再生の中断

「DPF 手動再生」が行われている時に、再生を中断する場合は、前ページの「DPF 自動再生の中断」と同様の手順で行います。

3. 5 DPF異常時の警告レベルと処置

DPF に異常が発生すると、警告レベルに応じて下表のように DPF 再生中ランプ、DPF 再生スイッチ、DPF 要求ブザーが動作します。「状態と処置」に従い適切な処置をしてください。

警告レベル	点灯	点滅	DPF ブザー	状態と処置
正常 自動再生	 DPF 再生中 ランプ			DPF 内の条件が整い 「DPF 自動再生」が 実施されています。
警告 手動再生の要求		 DPF 再生 スイッチ	断続音	一定量以上の PM が 堆積しています。 「DPF 手動再生」を 行ってください。 ※手動再生が必要な時は手 動再生終了まで「DPF 自 動再生」は作動しません。
正常 手動再生中	 DPF 再生中 ランプ  DPF 再生 スイッチ			手動再生スイッチが 押され「DPF 手動再生」 が実施されています。
危険 出力制限 手動再生の要求		 DPF 再生 スイッチ (警告より 間隔短い)	断続音 (警告より 間隔短い)	DPF 内に多量の PM が 堆積しています。 直ちに「DPF 手動再生」を 行ってください。 ※エンジン保護のため回転 数を 1500/min 以下にし ます。 ※これ以上運転を続ける と、エンジン始動および 再生操作が出来なくなり ます。
異常 手動再生不可	 エンジン チェック ランプ	 DPF 再生中 ランプ	断続音	DPF 内の堆積量が異常で す。直ちに車両を安全な場 所に移動させ、使用を中止 してください。 ※販売店に連絡をして ください。

■運転要領

1. 新車の運転

最初の50～100時間はならし運転期間です。

各部をなじませ、いつまでも性能を保つため、特に次のことに注意してください。

- ・エンジンが暖まるまで暖機運転を行ない、空ぶかしはしないでください。
- ・急発進、急加速、急停止はさけてください。
- ・フルスピードや無理な旋回は、できるだけしないでください。
- ・過負荷にならないように積載量、フロアコンベア速度を調節してください。
- ・初回のオイル交換、給油脂、点検は確実に行ってください。

(60ページの「点検整備基準」を参照してください。)

2. 作業前の点検

⚠危険

- ・燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- ・エンジン回転中や停止直後は、絶対に給油しないでください。
- ・燃料キャップは確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
- ・燃料もれがないか、燃料ホースが破損していないか点検してください。守らないと、火災事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

- ・排気ガスは有害です、換気の悪い車庫や屋内でエンジンを始動しないでください。
守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故になるおそれがあります。
- ・エンジンまわりにわらくず、ゴミが付着していないか、作業前に点検してください。
DPF 本体及びテールパイプの周りに可燃物等が無いことを確認してください。
守らないと、火災事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

- ・点検、整備またはそうじをするときは、必ずエンジンを停止してください。
守らないと、事故を引き起こしたり、機械を損傷するおそれがあります。
- ・DPF は 3000 時間毎に販売店で点検してください。
点検しないと、エンジン出力の低下やエンジン寿命の減少を引き起こします。
- ・燃料は軽油を使用して下さい。
バイオディーゼル燃料や、バイオディーゼル燃料を混合した軽油は使用しないでください。
軽油以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。
- ・エンジンオイルには「シェル リムラ R5LE 10W30」を使用して下さい。上記以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。

作業前に次の各項目について点検し、安全で快適な作業をしてください。異常があった場合には、44 ページの点検と整備を参照して調整、補充をしてください。

(1) 燃料

作業に十分な燃料が燃料タンクに入っているか点検してください。

タンク容量は30リットルです。

燃料は軽油（JIS 2号軽油あるいはJIS 3号軽油、JIS 特3号軽油）を使用してください。

燃料補給時はゴミ、水が混入しないように注意してください。

[取扱いの注意]

- ・ 排出ガス規制対応エンジンは、様々な新技術を取入れ規制値を満足するよう開発されています。
バイオディーゼル燃料や、バイオディーゼル燃料を混合した軽油は使用しないでください。
軽油以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。
必ず指定の燃料を使用してください。

(2) エンジンオイル

エンジンオイルが適量か点検してください。

オイルレベルゲージにある「上限」、「下限」を示す印の間であれば適量です。

不足の場合は、指定エンジンオイルを上限まで補給してください。

「交換」位置までエンジンオイルが増えた場合はエンジンオイル全量を交換してください。

（DPF 再生頻度が多く軽油が混入している可能性があります）

エンジンオイルには

「シェル リムラ R5LE 10W30」を使用して下さい。



[取扱いの注意]

- ・ 排出ガス規制対応エンジンは、様々な新技術を取入れ規制値を満足するよう開発されています。
上記エンジンオイル以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。

- (3) 冷却水
水量が適量か点検してください。
リザーブタンクの2本の線の間であれば適量です。
- (4) 作動油
油量が適量か点検してください。
作動油ゲージの上下の赤線の間であれば適量です
- (5) バッテリー
バッテリー液の量と、バッテリーコードの取付ボルトがゆるんでいないか点検してください。
- (6) ファンベルト
ファンベルトがゆるんでいないか、損傷がないか点検してください。
- (7) クローラ
張りの程度、損傷がないか点検してください。
各クローラに異常がないか点検してください。
- (8) 各部のゆるみ、油圧ホース、燃料ホース、ラジエータホース、エアホース
機械の周りを一巡して、損傷、油・水もれなどの異常がないか点検してください。
- (9) エンジン排気の色、異音、振動など異常がないか点検してください。
エアクリーナ、DPF 本体、排気管などに取付の緩みやガスもれがないか、
可燃物などが周囲にないか、点検してください。
- (10) アクセルレバーの作動
渋りや、引っ掛かりがないか点検してください。
- (11) ステアリングレバーの作動を点検してください。
- (12) 副変速レバーの作動を点検してください。
- (13) 散布レバーの作動を点検してください。
- (14) フロアコンベア速度調節レバーの作動を点検してください。
- (15) 各種警報ランプ・ヘッドライト・ホーンの作動、サイドミラーの状態を点検してください。

3. エンジンの始動



- ・排気ガスは有害ですので、換気の悪い車庫や屋内でエンジンを始動しないでください。
守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故になるおそれがあります。
- ・エンジン始動は必ずシートにすわり、周囲の安全を確認し、いつでも運転操作ができる状態で行ってください。
守らないと、正常な運転ができずに傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- (1) 散布レバーを「停止」、ステアリングレバーを「ニュートラル」にします。
- (2) アクセルレバーを「始動」位置にします。



散布レバー

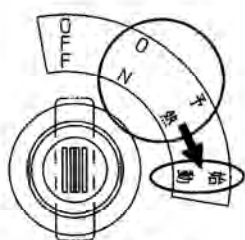


ステアリングレバー



アクセルレバー

- (3) スタータスイッチを「予熱」か「ON」に回し、グローランプが消灯したらただちにスタータスイッチを「始動」にし、セルモータを回します
- (4) 始動したらすぐにスタータスイッチから手をはなします。
- (5) アクセルレバーを「低速」位置にして10分間以上暖機運転を行います。
- (6) ランプボックス内のすべてのランプが消えているか確認します。



スタータスイッチ



アクセルレバー



[取扱いの注意]

- ・飛び出し事故を防止するため、ステアリングレバーがニュートラルでないとエンジンを始動できません。
- ・エンジンが始動しない場合、セルモータを10秒以上連続で回さないでください。
一回で始動しないときは30秒以上休んでから再始動してください。
- ・再始動はセルモータが完全に止まってから行なってください。
- ・暖機運転は冬季にかぎらず必ず行ってください。
本機は、走行・散布を油圧駆動で行っていますので、必ず暖機運転を行い油圧作動油を暖めてください。
暖機運転を行わないと、性能が得られないばかりか、故障の原因になります。

- ・暖機運転中は排気音、排気色、異音、振動等を点検してください。
- ・始動後オイルプレッシャーランプ、チャージランプ、エンジンチェックランプ、水温ランプが点灯（点滅）している場合は、ただちにエンジンを止め点検してください。

4. エンジンの停止

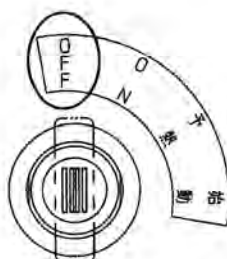
▲警告

- ・駐車、格納時は必ずキーを抜いてください。
守らないと、子供がいたずらしたり、操作を知らない人が動かして
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- (1) アクセルレバーを「低速」にして、5分間程度冷機運転します。
- (2) スタータスイッチを「OFF」にするとエンジンが停止します。
- (3) キーを抜いてください。



アクセルレバー



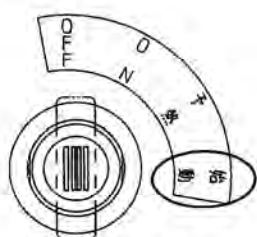
スタータスイッチ

5. 発 進

▲警告

- ・周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないように
ゆっくり発進してください。
- ・共同作業の場合は合図をしてから発進してください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

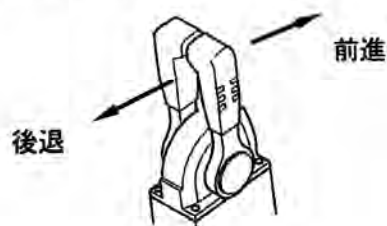
- (1) エンジンを始動します。
- (2) 副変速レバーを希望の位置にします。
- (3) アクセルレバーを引いてエンジンの回転を上げます。
- (4) ステアリングレバーを「前進」あるいは「後退」側にゆっくり動かすと発進します。
レバーを大きく動かすにつれ、車速が速くなります。



スタータスイッチ



アクセルレバー



ステアリングレバー

6. 停 止



- ・機械から離れる時は、必ず散布レバーを「停止」、ステアリングレバーを「ニュートラル」にしたのちエンジンを停止してください。
- ・駐車する場合はできるだけ平らな場所を選んでください。
- ・傾斜地で駐車する場合は、必ずエンジンを停止し、歯止めをして下さい。守らないと、暴走事故等を引き起こすおそれがあります。

- (1) アクセルレバーをもどし、エンジンの回転を下げます。
- (2) ステアリングレバーをゆっくり「ニュートラル」にもどすと、自動的に油圧ブレーキがかかり停止します。
- (3) スタータスイッチをOFFにしてエンジンを止めます。



[取扱いの注意]

- ・ステアリングレバーはゆっくりと「ニュートラル」にもどしてください。急激にもどすと油圧ブレーキが強力に働き、ショックを受けます。
- ・本機はエンジンを止めると自動的に働く駐車ブレーキを装備しています。エンジンを始動すると駐車ブレーキは自動的に解除されます。傾斜地などでエンジンをかけたまま駐車すると、クリープ（極低速で動き出す）することがあります。

7. 変 速

本機の走行は、HST（静油圧トランスミッション）駆動ですので、ステアリングレバーの動きに応じて無段変速します。
また、副変速レバーにより速度範囲を高低2段階に変えられます。



[取扱いの注意]

- ・堆肥運搬作業、散布作業、坂道走行等、抵抗の大きいときは副変速「低速」で走行してください。

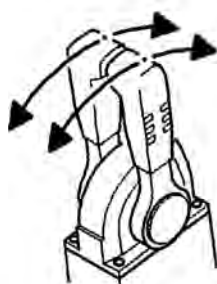
8. 旋 回



警告

- ・高速走行中の急旋回は危険です、絶対に避けてください。
- ・傾斜地での旋回はしないでください。
守らないと、転落や接触により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

走行中、旋回したい側のステアリングレバーをもどすと旋回します。
大きくもどすと旋回半径が小さくなります。(ピボットターン)
ステアリングレバーを左右逆方向に動かすと、その場旋回(スピンターン)します。



ステアリングレバー

〔取扱いの注意〕

- ・旋回中は抵抗が大きいため、ステアリングレバーを大きく動かすと、エンジンに無理がかかります。アクセルレバーは「高速」位置にし、ステアリングレバーは小さく操作してください。
- ・副変速「高速」の時、コンクリート舗装路等の摩擦の大きい路面では旋回できない場合があります。これはリリーフバルブ(油圧安全弁)がきいた状態で故障ではありませんが、これを長時間行くと油圧機器の故障の原因となりますので、ただちに副変速を「低速」にして走行してください。

9. 坂道走行



警告

- ・坂道では低速で走行してください。
特に下り坂では、エンジン回転を中速以下にして走行してください。
- ・傾斜地での旋回や等高線にそった走行はしないでください。
傾斜地は斜面にそって登り降りしてください。
守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

HST駆動ですので、平地と同じように発進、走行できます。
急な登り坂では、エンジン回転を高めにし、ステアリングレバーをゆっくり小さく操作してください。

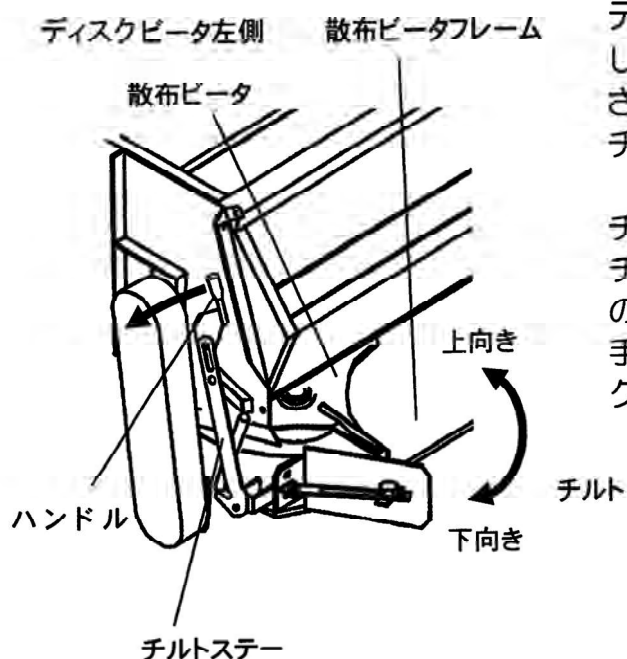
〔取扱いの注意〕

- ・坂道で、エンジンをかけたまま停車すると、谷側へのわずかなすり落ちが起こる場合があります。
エンジンを停止すれば駐車ブレーキがかかります。

10. ディスクビータのチルト操作（ディスクビータ仕様）



- ・チルト操作はビータの回転を止めてから行ってください。守らないと、ビータに巻き込まれて、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



ディスクビータは散布ビータがチルト（傾く）して散布幅が変えられます。上向きにチルトさせると幅広散布、薄まきとなり、下向きにチルトさせると狭幅、厚まきとなります。

チルトは5段階に調節できます。チルトステーのハンドルを倒すとロックが外れますので、ハンドルを倒しながら散布ビータフレームを手で下げまたは上げ方向に動かして適切な段でロックしてください。

11. 散布制御部品について（ディスクビータ仕様、横型ビータ仕様）



- ・散布制御部品の調節はビータの回転を止めてから行ってください。守らないと、ビータに巻き込まれて、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

ディスクビータ、横型ビータには以下のような散布制御部品が付属しています。用途に合わせて使用してください。

均一散布ガイド（ディスクビータ仕様）

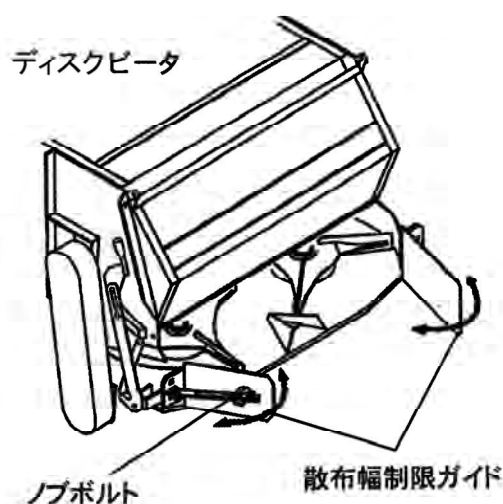


パーク堆肥のようなサラサラした堆肥を均一に散布するための部品です。

【取扱いの注意】

- ・長わら入り堆肥を散布する場合は取り外してください。

散布幅制限ガイド（ディスクビータ仕様）



あぜぎわやハウス内等で、散布幅を制限したいときに使用します。

散布幅を調節する時は、ノブボルトを反時計方向にゆるめてから散布幅制限ガイドの角度を変え、再びノブボルトを時計方向に回して固定してください。

ガイドは左右別々に調節できます。

ガイドが必要ないときは、いっばいに開いておきます。

〔取扱いの注意〕

- 作業がおわったら、散布ガイドを閉じておいてください。

マニアパン（横型ビータ仕様）

もみがら堆肥のようなサラサラした堆肥の運搬中や散布中のこぼれ落ちを防止するために使用します。

〔取扱いの注意〕

- 長わらの多い堆肥の場合はビータ部に堆肥が詰まりやすくなりますので、マニアパンを開放してください。

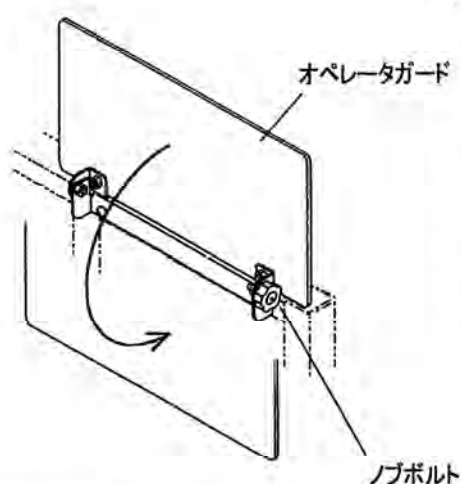
1 2. 運転中の注意事項

▲警告

- ・ 運転中は荷台などに人を乗せないでください。
- ・ 点検、整備等で取り外したカバー類は必ず取り付けてから作業してください。
- ・ 農道走行は、他の交通に充分注意して、安全運転してください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

▲注意

- ・ 作業中は油圧作動油が発熱して各部が熱くなっています。特に作動油タンク、走行モータにはさわらないでください。
- ・ 運転中、停止直後のエンジン、マフラー、ラジエータは高温ですのでさわらないでください。守らないと、やけどをするおそれがあります。
- ・ 公道の乗車走行はしないでください。
- ・ 過積載をしないでください。守らないと、機械の破損により思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ・ 堆肥散布中は鳥居のオペレータガードを立ててください。守らないと、堆肥や堆肥の中の石などが飛散するので、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



オペレータガードの折りたたみ方

ハウス、納屋の出入りなどオペレータガードがじゃまな場合は折りたたむことができます。ノブボルトをゆるめ、後方へ折りたたみ、任意の位置でノブボルトを締め付けて固定してください。堆肥散布をする前には必ずオペレータガードを立て、しっかりノブボルトを締め付けてください。

[取扱いの注意]

- ・ クローラはゴム製です。鋭角な切り株、石等の上の走行はクローラを損傷することがありますので、できるだけ走行しないでください。
- ・ クローラ、トラックローラの間に大きな石（直径30mm以上）等が入った時は、できるだけ早く取り除いてください。そのまま走行すると走行装置を損傷する原因となります。
- ・ トラックローラ等のローラが完全に動いているか注意してください。
- ・ 運転中にDPFの自動再生が開始されたら、24ページ「運転と操作 3. DPFの取扱い」に従い適切に対応してください。

■堆肥散布作業



危険

- ・回転中のビータには、絶対に近づかないでください。
 - ・堆肥や、堆肥の中の石などが飛散するので、後方および左右10～15mの範囲には人を立ち入らせないでください。
- 守らないと、死亡や傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

- ・傾斜地や凹凸圃場では低速で作業してください。
 - ・傾斜地での旋回や、等高線ぞいの作業はしないでください。
- 傾斜地では斜面方向で作業してください。
- 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 堆肥の積み込み

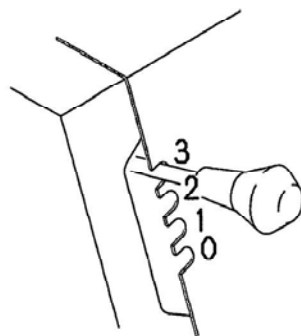
能率よく散布するためには、堆肥を適正量積み込む必要があります。
積みすぎると堆肥が詰まったり、過負荷によりビータ回転速度が低下し、かえって非能率になります。

適正積み込み量はゲートの高さ以下で

また、積み込み量は堆肥の性状によってかえてください。
たとえば、完熟した堆肥や、もみがら堆肥のようにかさの軽い堆肥は、ゲートの高さまで積んでも散布できますが、生わらの多い不成熟堆肥や鶏糞・豚糞堆肥のような重い堆肥の場合は、負荷が大きいので少なくしてください。

2. 散布量の調節

散布量は、フロアコンベア速度と車速で調節します。
フロアコンベア速度は1速～3速まであり、数字が大きくなるほど速くなります。
フロアコンベア速度調整レバーは、ビータを回転させながら操作してください。

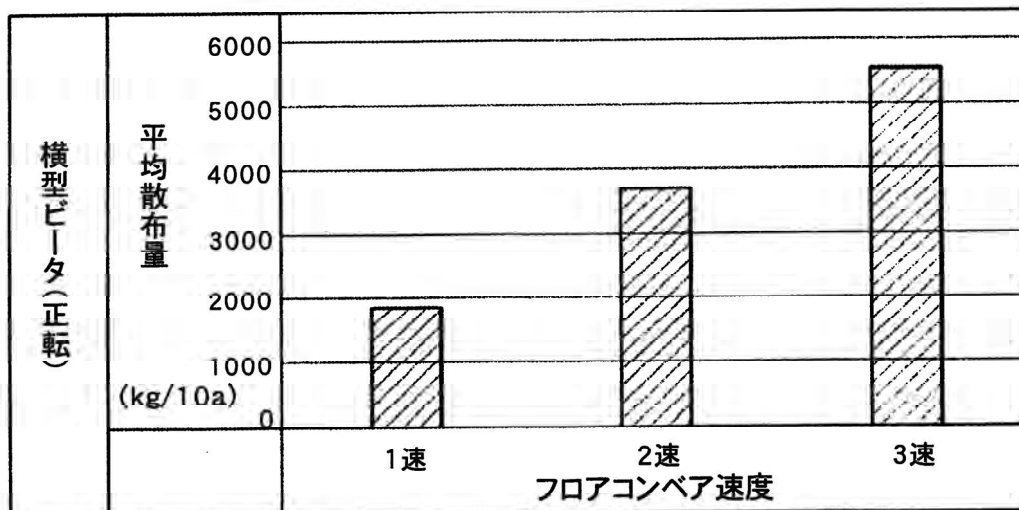
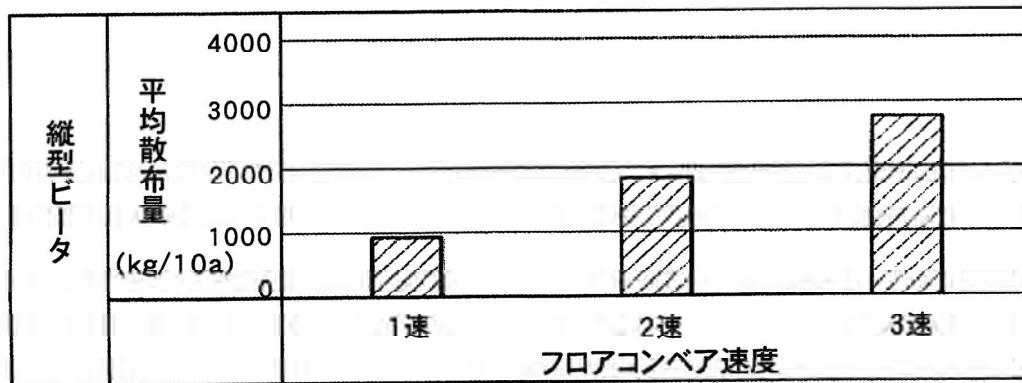
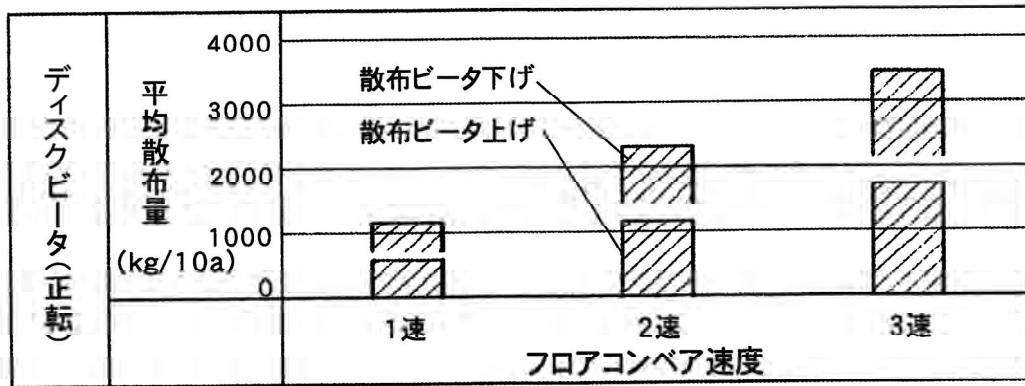


フロアコンベア速度調整レバー

ディスクビータ仕様では散布幅も変えられますので、フロアコンベア速度と共に調節してください。

散布量の調節は、堆肥散布量図を参考にして実際の散布量を見て行ってください。

堆肥散布量図



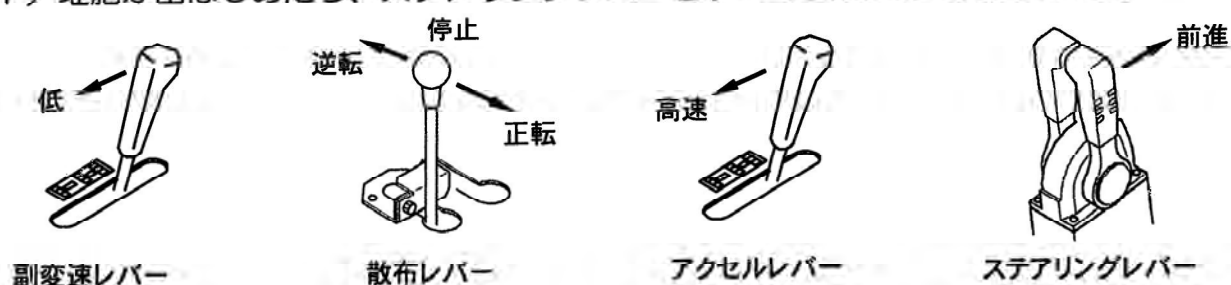
〔取扱いの注意〕

- 上の図は荷台に2500kgの堆肥を平均に積み、エンジン「高速」、副変速「低速」でステアリングレバーを前進いっぱい（最高速位置、時速4.8km/h）で行った場合の10a当たりの散布量です。（計算値）
- ディスクビータ仕様の図は、散布ビータチルトをいっぱい「上げ」にした場合と「下げ」にした場合を示します。散布幅制限ガイドは全開の状態です。逆転散布では図の約2.7倍の散布量になります。
- 逆転散布の場合は、ビータ部に堆肥が詰まりやすくなりますので注意してください。
- 横型ビータ仕様の場合、逆転散布はビータ部に堆肥が詰まりやすくなるので、サラサラの堆肥のみ使用してください。
- 縦型ビータ仕様は逆転散布ができません。

- ・ 散布量は堆肥の状態により異なります。実際の散布を見て調節してください。
- ・ フロアコンベア速度をむやみに速くすると、過負荷になりますので、適当な速度で散布してください。
- ・ 生わらの多い不完熟堆肥や、鶏糞・豚糞堆肥のような重い堆肥の場合は、負荷が大きいため、フロアコンベア速度「2」以下で作業してください。

3. 散布方法

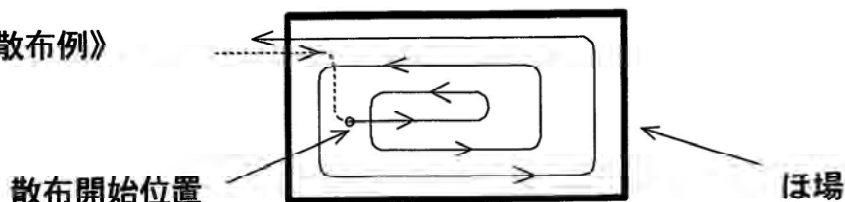
- (1) 堆肥散布量図を参考にしてフロアコンベア速度を決めます。
フロアコンベア速度調節レバーは、ビータを回転させながら操作してください。
ディスクビータ仕様の場合は、散布ビータチルト角度、散布幅制限ガイドを調節します。
- (2) 副変速レバーを「低速」にします。
- (3) 堆肥を積み込みます。
- (4) 散布開始位置へ移動します。
- (5) 散布レバーをゆっくり「正転」（あるいは「逆転」）にして、ビータとフロアコンベアを作動させます。
- (6) アクセルレバーを「高速」にします。
- (7) 堆肥が出はじめたら、ステアリングレバーをゆっくり前に押し発進します。



- (8) 堆肥が終わったら散布レバーをゆっくり「停止」にします。

散布方法は、ほ場の中央より外側に向かって旋回しながら散布すると、散布した堆肥を踏みつけることなく作業でき、道路等への堆肥の落ちこぼれが少なくなります。

《散布例》



[取扱いの注意]

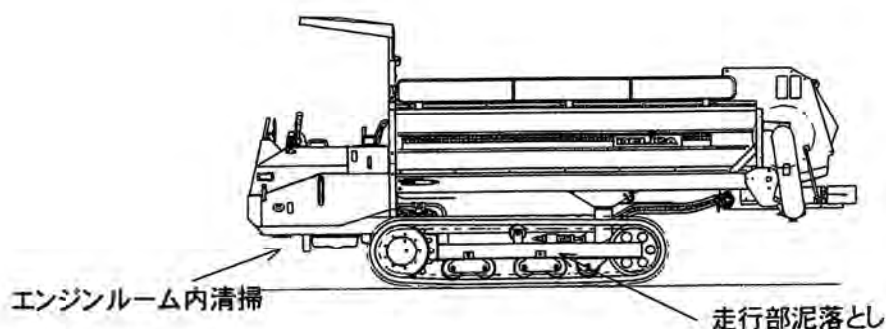
- ・ 散布は副変速「低速」で行い、エンジンが過負荷にならないように気をつけてください。副変速「高速」で行うとオーバーヒートするおそれがあります。
- ・ 特に、あぜぎわ散布の時は、周囲に人がいないか、隣のほ場に飛散しないか気をつけながら行ってください。
- ・ 散布が終了したら道路などに堆肥を落とさないように、機体に付着した堆肥を取り除いてください。
- ・ 作業前に、ビータの回転やフロアコンベアの動きに異常がないか点検してください。

■格 納



- ・機械にシートをかける場合は、エンジンやマフラーが充分冷えてからかけてください。
守らないと、火災事故を引き起こすおそれがあります。

作業終了後は各部を清掃して格納してください。
エンジンルームには、フロアコンベアのもちまわりによって堆肥がたまります。これらはそのままにしておくと故障の原因となりますので、作業終了毎に清掃してください。
また、走行部（クローラ、トラックローラ）の泥落としも行ってください。



長期間格納する場合は次の要領で行ないます。

- (1) 各部を水洗いしてください。
特に荷台、走行部は入念に洗ってください。
エンジンや電装品には圧力水をかけないでください。
- (2) ボルト、ナット類のゆるみを点検し、必要なものは増し締めしてください。
- (3) 各部に給油してください。
(点検と整備の項を参照してください。)
特に、フロアコンベアのベアリングユニット、走行部には充分給油してください。
- (4) キーを抜き、安全な場所に保管してください。
- (5) 屋内に格納してください。
やむをえず野外に置く場合はシート等をかけて、風雨にさらされないようにしてください。また、水たまりのない場所に置いてください。

[取扱いの注意]

- ・水洗いのとき、電装品（パネル、エンジン）には圧力水をかけないでください。

■トラックによる運搬



- ・搭車、降車時は、クローラがあゆみ板からはずれないか、充分注意してください。
- ・あゆみ板の途中で進路変更をすることは危険ですので、進路変更は事前に行ってください。
守らないと、転落事故等を起こすおそれがあります。

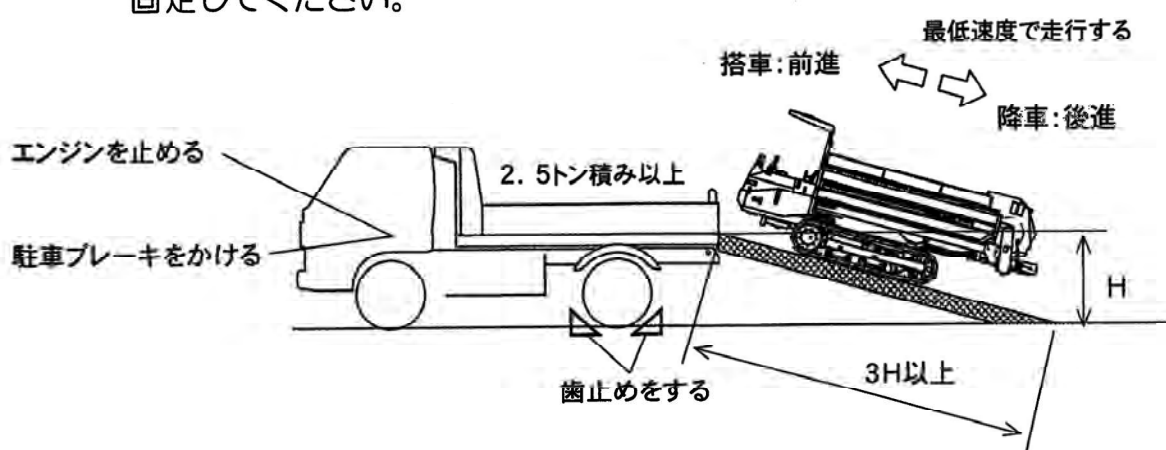
▲警告

- トラックは2.5トン積み以上で、マニュアルスプレッドを積める広さのものを用意してください。
- 搭車、降車時は、平坦な安全な場所でトラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキをかけ、歯止めをしてください。
- あゆみ板は2.5トンに充分耐えられ、長さはトラックの荷台高さの3倍以上あり、確実な引掛け金具付きで、滑り止め用の横さんが入ったものを用意してください。
- 搭車は前進、降車は後進で行ってください。
守らないと、転落事故等を起こすおそれがあります。
- 移動する時はマニュアルスプレッドが動かないように歯止めをして、トラックの荷台にロープ等で固定してください。
- マニュアルスプレッドを積んでトラックを運転する場合は、空荷のときと運転感覚が変わりますので慎重な運転をしてください。
- 搭車、降車はマニュアルスプレッドを空車の状態で行ってください。

長距離の本機の移動はトラックにより行いますが、トラックへの搭車、降車は充分注意して、次の要領で行います。

1. 搭 車

- (1) トラックが動かないように駐車ブレーキをかけ、歯止めをしてください。
- (2) トラックにあゆみ板をかけ、間隔をクローラのトレッド(1150mm)に合わせてください。
- (3) 副変速レバー「低速」、アクセルレバー「低速」で、前進でゆっくり登ってください。
- (4) 片荷にならないように、トラックの荷台の中心に乗せてください。
- (5) マニュアルスプレッドが動かないように歯止めをして、トラックの荷台にロープ等で固定してください。



2. 降 車

搭車と同じ要領でトラックを固定し、あゆみ板をかけ、低速でゆっくり下ります。

■点検と整備

▲警告

- ・点検、整備、修理をする時は、危険のない平坦な場所で行ってください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ・点検、整備、修理あるいは清掃するときは、必ずエンジンを停止してください。
- ・エンジンカバーを開けたときは、必ずステーを立ててください。
- ・エンジンカバーのステー操作、エンジンオイルの検油、給油を行う際は、必ずエンジンが冷えてから作業してください。高温部に触れ、やけどをするおそれがあります。
- ・点検、整備等で取り外したカバー類は必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備は、作業の安全・機械の寿命・作業能率に大きく影響しますので、この取扱説明書とエンジンの取扱説明書を参照して、定期的に行ってください。作業前には機械の周りを一巡して、異常がないか確認してください。

〔取扱いの注意〕

- ・給油脂時は、給油口を布等できれいにしてから行ってください。
- ・油脂は、指定の銘柄を使ってください。
- ・油圧機器は極端にゴミをさらいますので、整備・補給時はゴミを入れないよう注意してください。
- ・交換部品は純正品を使用してください。
- ・オイルやグリースがクローラに付着した場合は、すぐに布等でふき取ってください。

1. ボルト、ナットのゆるみ

点検：500時間毎

各部のボルト、ナットのゆるみを点検します。
新車は初回5～10時間使用後に全てのボルト、ナットのゆるみを点検します。

2. 車体の損傷

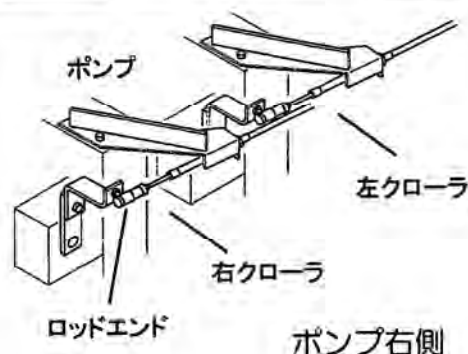
点検：作業前

車体に損傷や異常がないか、特に溶接部に亀裂がないか点検します。

3. ステアリングレバーの調整

直進性が悪い、あるいは、ニュートラルが出ない時に行います。

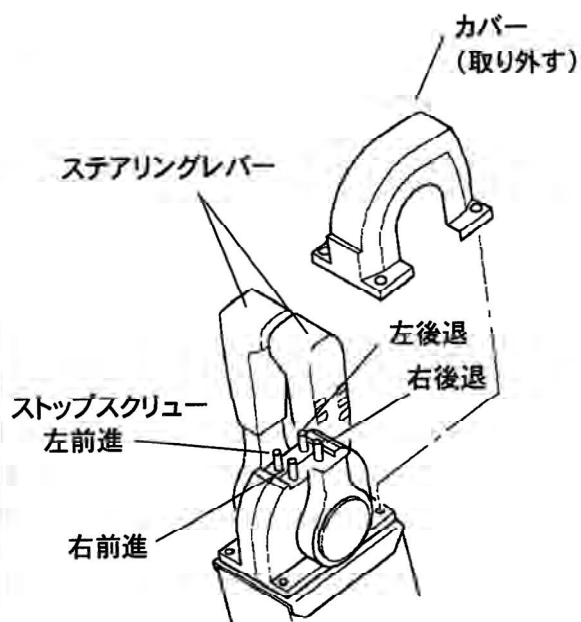
- (1) ステアリングレバーをニュートラルにします。
- (2) ポンプ側のロッドエンドを調整し、ニュートラルを出します。



- (3) ステアリングレバーをいっぱい前後に倒したときに直進するようにストップスクリューで調整します。
ストップスクリューをねじこむと速度が遅くなります。

【取扱いの注意】

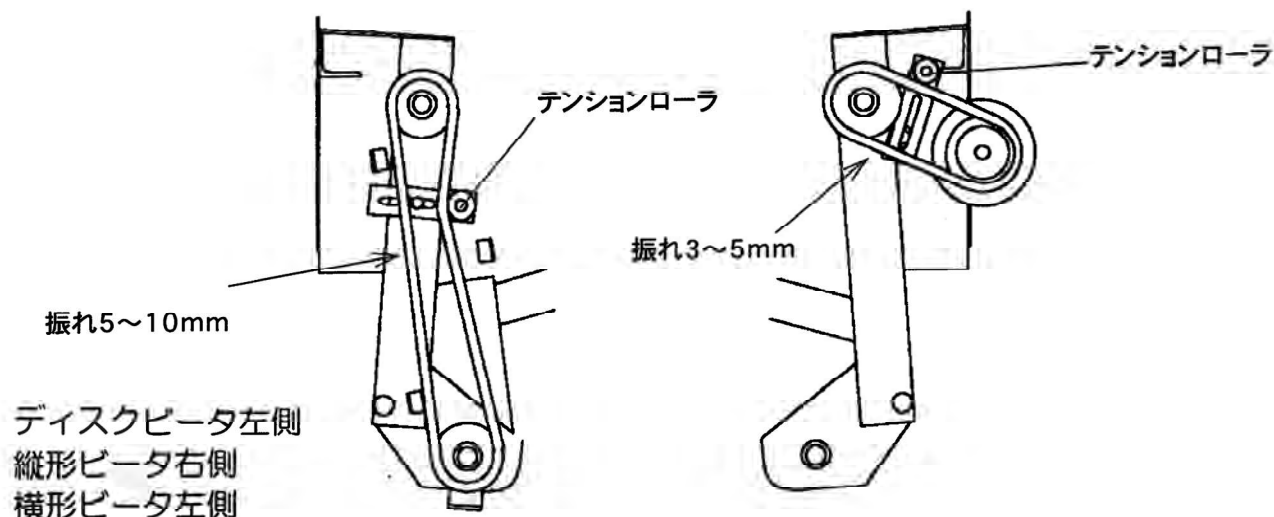
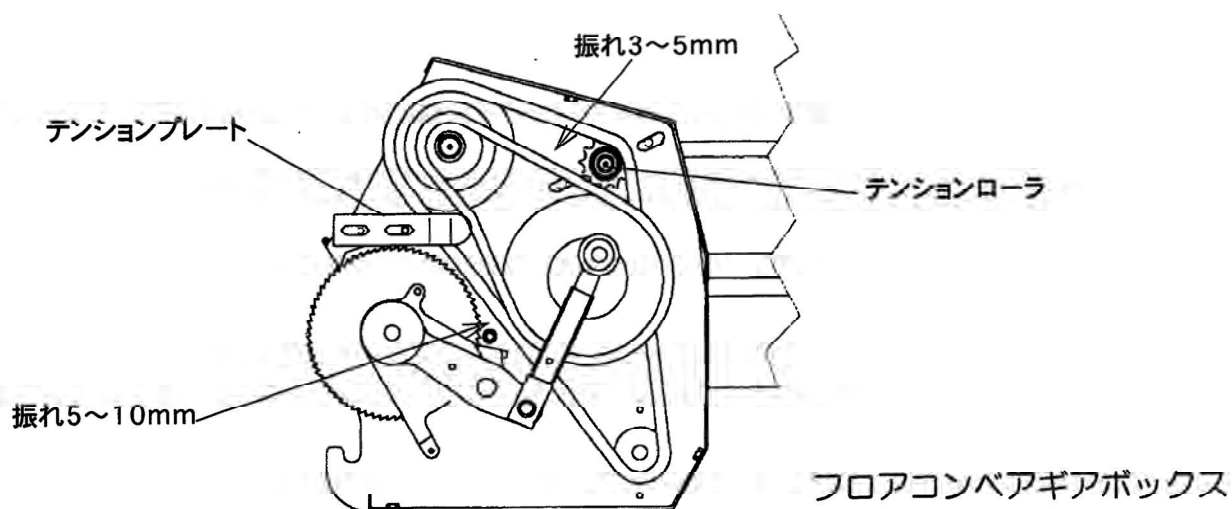
- ・ストップスクリュー調整時は最高速度が8.3 km/時(副変速「高」)を越えないようにしてください。
- ・速い方のクローラを遅くするように調整します。



4. ローラチェーンの張り

点検：50時間毎 給油脂：20時間毎

ローラチェーンの張りは、テンションローラ、テンションプレートにより行います。
張りの基準値は下図の通りです。
新車は初回5～10時間使用後に点検します。



5. クローラの調整

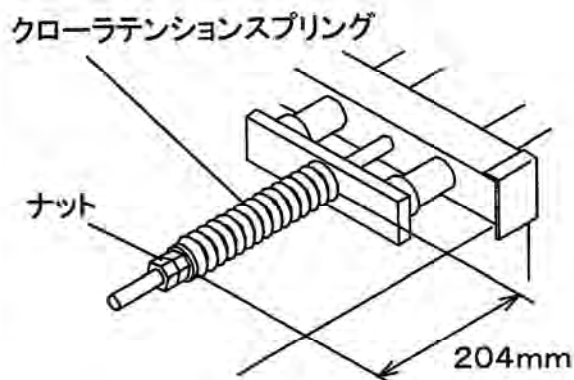
点検：50時間毎

クローラは自動緊張方式ですが、磨耗・なじみ等によりゆるむ場合がありますので点検してください。

クローラテンションスプリングの長さが204mmになるようにナットで調整します。
新車は5～10時間使用後に点検します。

〔取扱いの注意〕

- ・クローラをたるませたまま走行すると、脱輪することがあります。
- また、張りすぎると、馬力損失・クローラ切断事故の原因となりますので、規定通り張って下さい。



6. トラックローラ

点検：作業前毎 給脂：20時間毎

トラックローラ・アップローラ・アイドラローラが完全に動いているか点検してください。
作動が不完全な場合には、給脂・分解整備をしてください。

7. フロアコンベアチェーンの張りとの交換

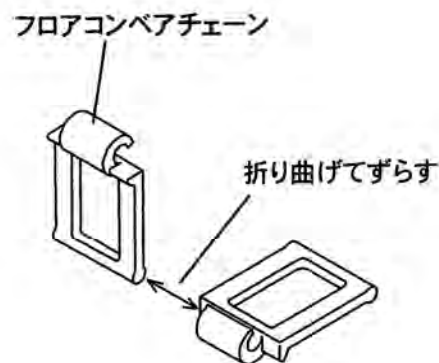
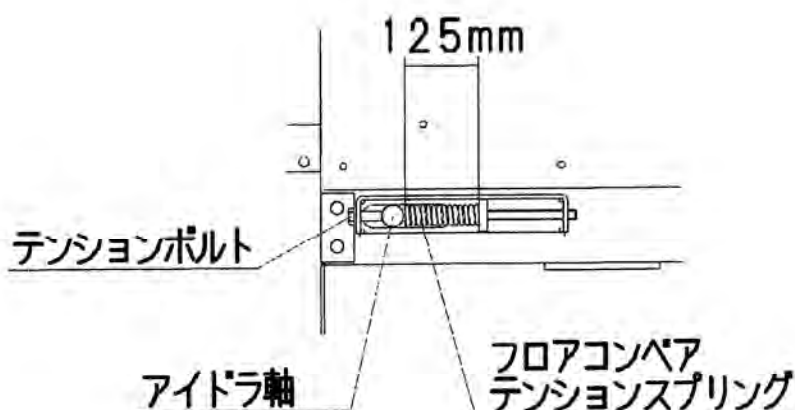
点検：作業前毎

フロアコンベアチェーンの張りは、フロアコンベアテンションスプリングの長さで点検します。

基準値は125mmです。

フロアコンベアチェーンはデタッチャブルチェーンですので、1リンク毎に交換できます。
交換は次の要領で行います。

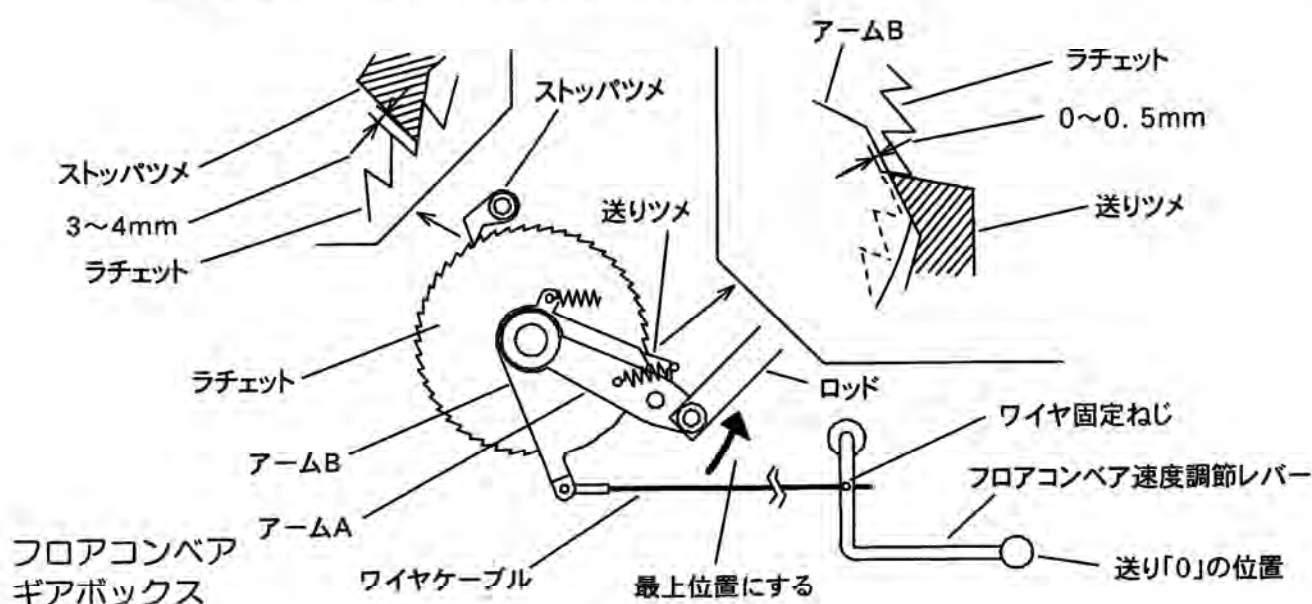
- (1) アイドラ軸のテンションボルトを回しテンションをゆるめます。
- (2) フロアコンベアチェーンを下図のようにずらして交換します。
- (3) テンションボルトを締め付け、チェーンを張ります。



8. フロアコンベアギアボックスの調整 点検：作業前毎 給油脂：20時間毎

フロアコンベアの速度がばらつく時、あるいは部品の交換をしたときは、次の調整をしてください。

- (1) フロアコンベア速度調節レバーを「0」位置にします。
- (2) ビータを手で回して、アームAがいちばん上になる位置（ラチェットをいちばん送った位置）にします。
- (3) ストップツメとラチェットの歯とのすきまが3～4mmになるように、ストップツメを動かして調整します。
- (4) 送りツメとラチェットの歯との間隔が0～0.5mmになるように、アームBの位置をワイヤーケーブルの長さを変えて調整します。

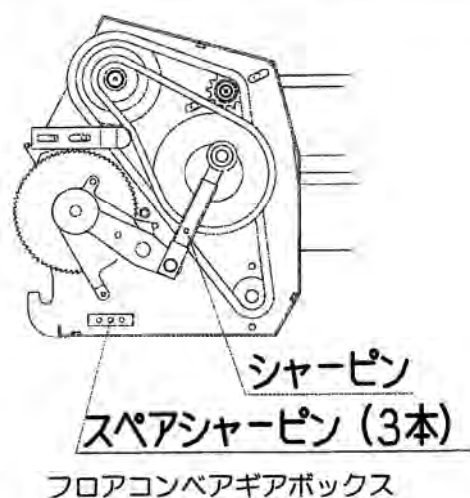


9. フロアコンベアシャープピンの交換 点検：作業前毎

フロアコンベアの保護のためにシャープピンが入っています。
 シャープピンが切れると、フロアコンベアのみが停止します。
 ビータは停止しません。
 シャープピンが切断した場合は、次の要領で交換してください。

スペアのシャープピンは3本付属しています。

- (1) エンジン进行停止します。
- (2) シャープピンが切断した原因を取り除きます。
- (3) 新しいシャープピンを入れ、Rピンで抜け止めをします。



[取扱いの注意]

- ・シャープピンは長時間使用するとつぶれ、フロアコンベアの送りがばらつくことがあります。このような場合は、新しいシャープピンと交換してください。
- ・シャープピンは必ず純正部品を使用してください。

10. 燃料ホース

点検：作業前毎 交換：2年毎

燃料もれがないか、燃料ホースにひび割れや損傷がないか、ホースバンドのゆるみがないか、作業前毎に点検してください。

燃料がもれると、火災などの思わぬ大事故を引き起こすことになりますから注意してください。

燃料ホースは純正品を使用し、2年毎に交換してください。

11. 電気系統

点検：作業前毎

ヘッドライト、前後ウィンカ、ホーン、電源取出、燃料メータ、尾灯、バックライト、バックブザー等が正しく作動しない場合は、電気系統を点検してください。

(1) スイッチの不良

(2) コネクタ、ターミナル、結線部のゆるみ

(3) 電球切れ

(4) ヒューズ切れ

- ・ 20A管ヒューズ（パネル2ヶ所）
- ・ 10A管ヒューズ（パネル1ヶ所）
- ・ ヒューズブルリンク（スタータB端子）
- ・ ヒューズボックス（エンジンルーム内1ヵ所）
- ・ Sヒューズボックス（エンジンルーム内2ヵ所）

(5) バッテリー上がり、液量

バッテリー

点検：シーズンはじめ/1 か月毎



- ・ バッテリーの点検、充電時は火気厳禁です。
- ・ バッテリー液は希硫酸で危険です。皮膚や服、車体に付けないでください。もし、付いた場合は、ただちに多量の水で洗ってください。守らないと、火災、やけどをしたり、服が破れるおそれがあります。
- ・ バッテリーから端子を外す際は、キーOFF 後数分時間を置いてから外してください。
- ・ バッテリーから端子を外す際は、必ずマイナス端子側より外して、外した端子がショートしないように注意してください。守らないと、感電や火災のおそれがあります。

バッテリーの清掃・ハーネス端子の確認

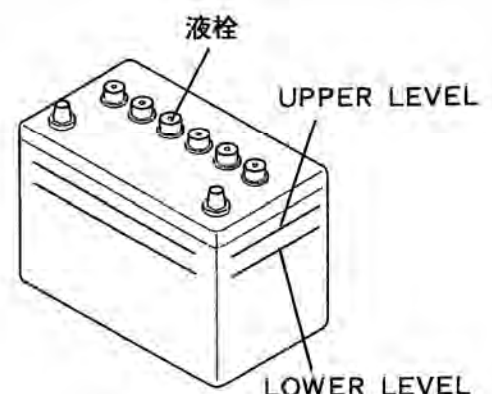
バッテリー接続部のハーネス端子は、常時電圧が加わるため腐食が進みやすい傾向にあります。バッテリーに堆肥などが付着している場合は、端子を外して清掃してください。また、端子が腐食していないかも確認してください。

電解液の量

バッテリー外箱の2本の横線（UPPER LEVELと LOWER LEVEL）の間にあるか点検します。

不足の場合は蒸留水を補給します。

バッテリーには6個の液槽がありますから、どの液槽も同じ液面にしてください。



補充電

バッテリーに蓄えられた電気量が減ってくると、エンジンが始動できなかったり、ヘッドライトが暗くなってきます。

この状態になる前に補充電を行ってください。

[取扱いの注意]

- ・長期間格納する場合は、バッテリーを車体よりおろし、液量を調整してから充電し、日光のあたらない乾燥した場所に保存してください。
- ・バッテリーは保存中でも自己放電しますから、1ヶ月に一度は補充電してください。
- ・エンジン運転中はバッテリーコードを外さないでください。電装品の故障の原因になります。

1 2. 油圧系統

点検：作業前毎

作動油

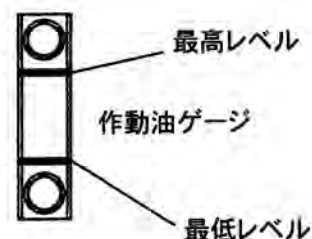
点検：作業前毎 交換：初回 100 時間、500 時間毎

作動油量が作動油ゲージの上下の赤線の間にあるか点検します。

不足の場合は、指定油をゲージ中央まで補給します。

油圧機器は極端にゴミをきらいますので、整備・補給時はゴミを入れないよう注意してください。

また、作動油は同じ銘柄・番手のものを続けて使ってください。



[取扱いの注意]

- ・作動油量の点検は、作動油が冷えている状態で行ってください。温度が高いと、作動油が膨張しているため正しい量がわかりません。

作動油は、500時間毎に交換します。

新車は初回100時間使用後に交換します。

作動油のドレンは、作動油タンク下面のドレンプラグから行ってください。

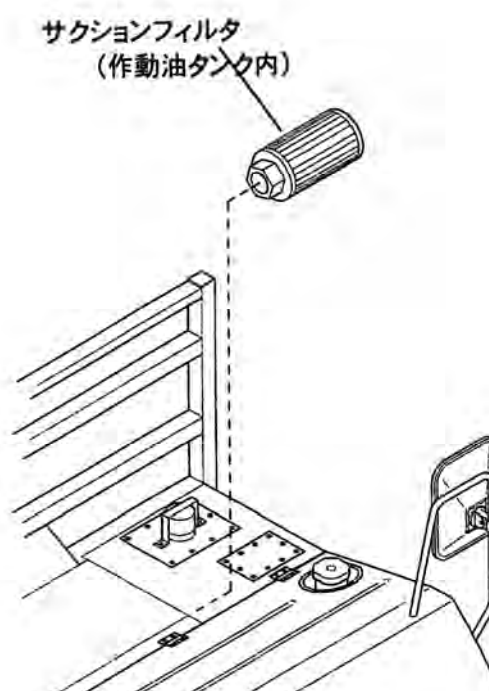
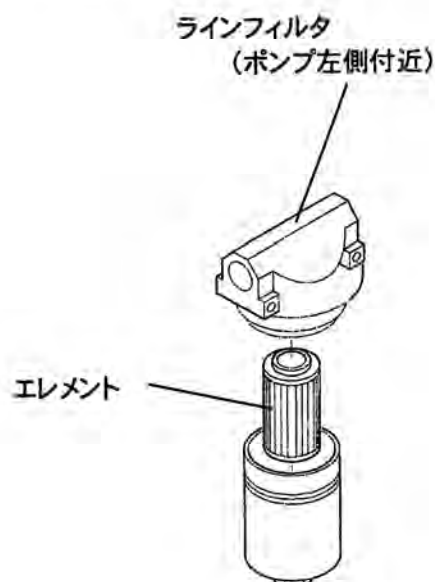
交換作動油量は約40リットルです。

作動油フィルタ

交換：初回100時間、500時間毎

ラインフィルタのエLEMENT(品番 51305-15500-02)を500時間毎に交換します。
新車は初回100時間使用後に交換します。

作動油タンク内のサクシヨンフィルタ(品番 51305-20780)を500時間毎に清掃あるいは交換します。



油圧ホース

点検：作業前毎 交換：2年毎

▲注意

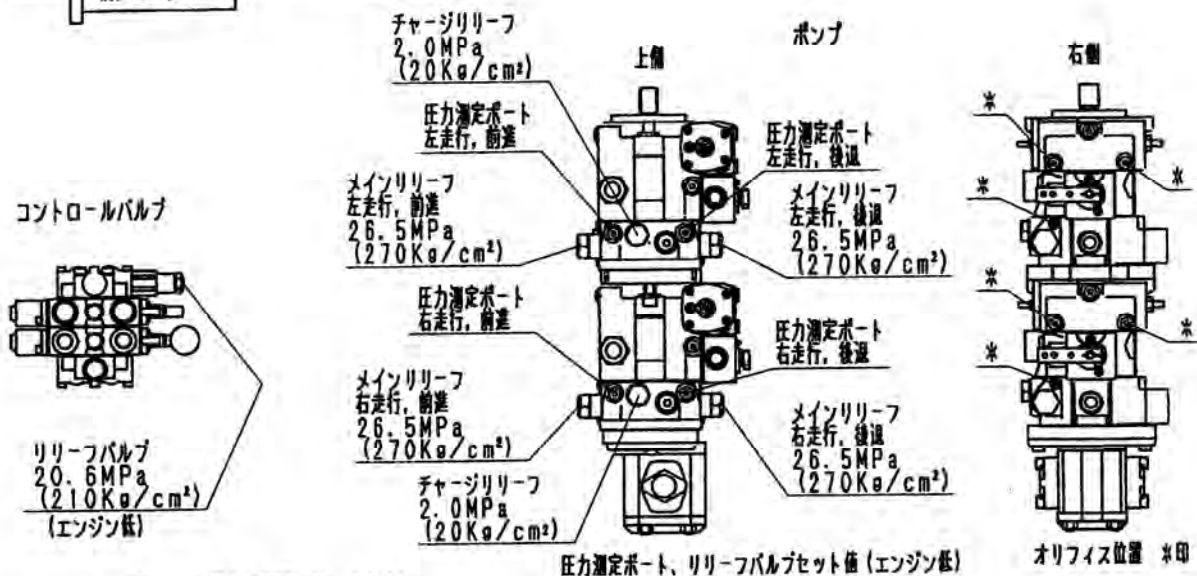
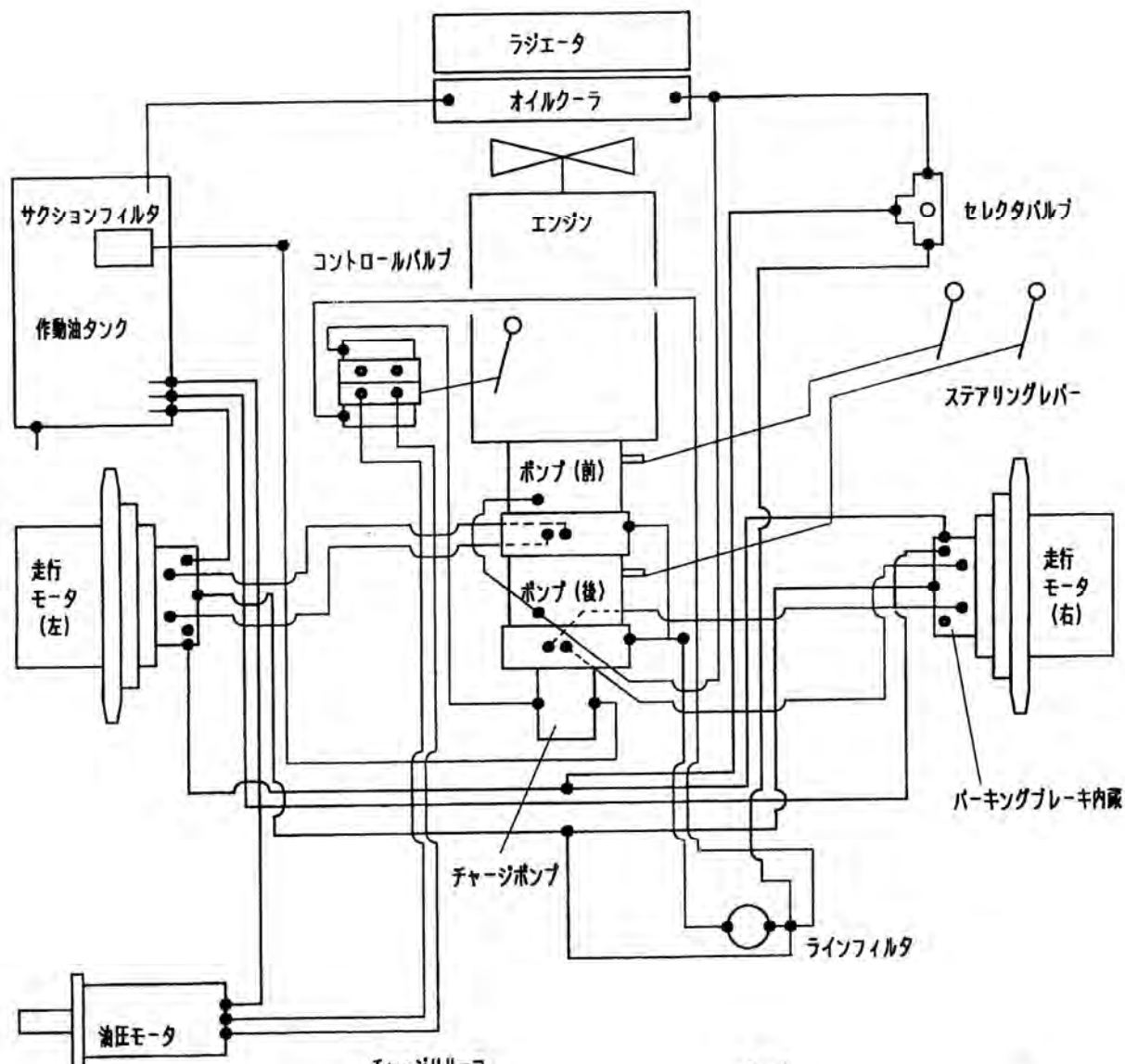
- ・油圧ホースや口金具の損傷やゆるみがないか、常に確認してください。
- ・口金具を外す場合には、必ずエンジンを停止し、圧力を抜いてください。
- ・守らないと、高圧油により傷害事故を引き起こすおそれがあります

作業前に、油圧ホースの口金具の損傷やゆるみ、油もれがないか点検してください。
また、油圧ホースの外周面・湾曲部分・口金付近に、亀裂・局部的なふくれ・油のにじみがないか点検し、異常がある場合は直ちに油圧ホースを交換してください。

〔取扱いの注意〕

- ・油圧ホースは、ゴム質の特性上、長期間経過すると経年変化により劣化し、破損しやすくなります。
- ・注意深く点検し、異常があれば新品と交換してください。
- ・異常がなくても2年毎に交換してください。

油圧系統図



リリーフバルブのセット圧力を変更しないでください。

13. エンジン

点検：作業前毎

詳細は付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。
なお、点検・交換時間は本書にしたがってください。

ディーゼルエンジンから排出されるNO_x、PM等の規制対象物質を低減するため、排出ガス規制対応エンジンは様々な新技術を取入れ規制値を満足するよう開発されています。
エンジンの性能を100%引出すには、正しい使用、適切なメンテナンスが必要です。

燃料・燃料タンク

点検：作業前毎 清掃：200時間毎または1年毎

軽油は使用地域・季節に応じた種類のものが販売されています。寒冷地で夏場の持ち越し軽油を冬季に使用すると、エンジン不調の原因となることがあります。

燃料タンクの底には水やゴミがたまることがあります。200時間毎（または1年毎の早い方）に燃料タンク下面のドレンプラグを外し、水やゴミを抜き出し洗浄してください。

[取扱いの注意]

- ・排出ガス規制対応エンジンは、様々な新技術を取入れ規制値を満足するよう開発されています。バイオディーゼル燃料や、バイオディーゼル燃料を混合した軽油は使用しないでください。
軽油以外を使用した場合、DPF装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。
必ず指定の燃料を使用してください。

燃料系統のエア抜き

燃料切れ等で燃料系統に空気が混入すると、始動困難やエンジン不調の原因になります。
本機のエンジンは自動エア抜き仕様です。

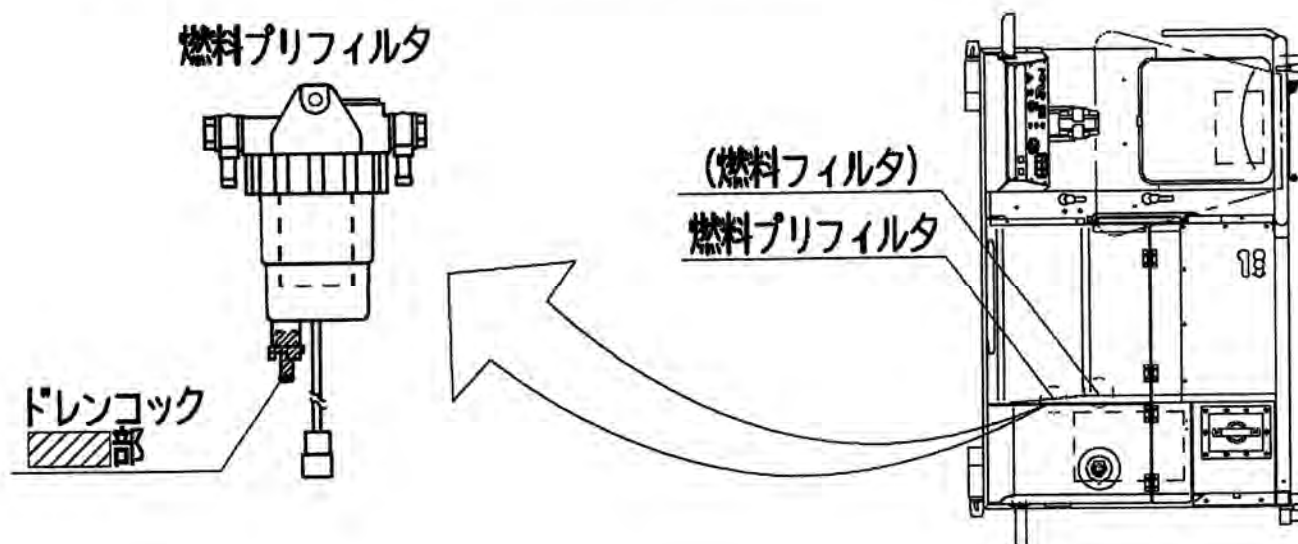
燃料切れの場合は燃料を補給後スタータスイッチを「ON」にし、そのまま1～2分待ってから始動してください。

燃料切れを起こさないように、燃料メータがE目盛りになる前に早めに給油してください。

燃料フィルタの水抜き（プリ）

水抜き：100時間毎

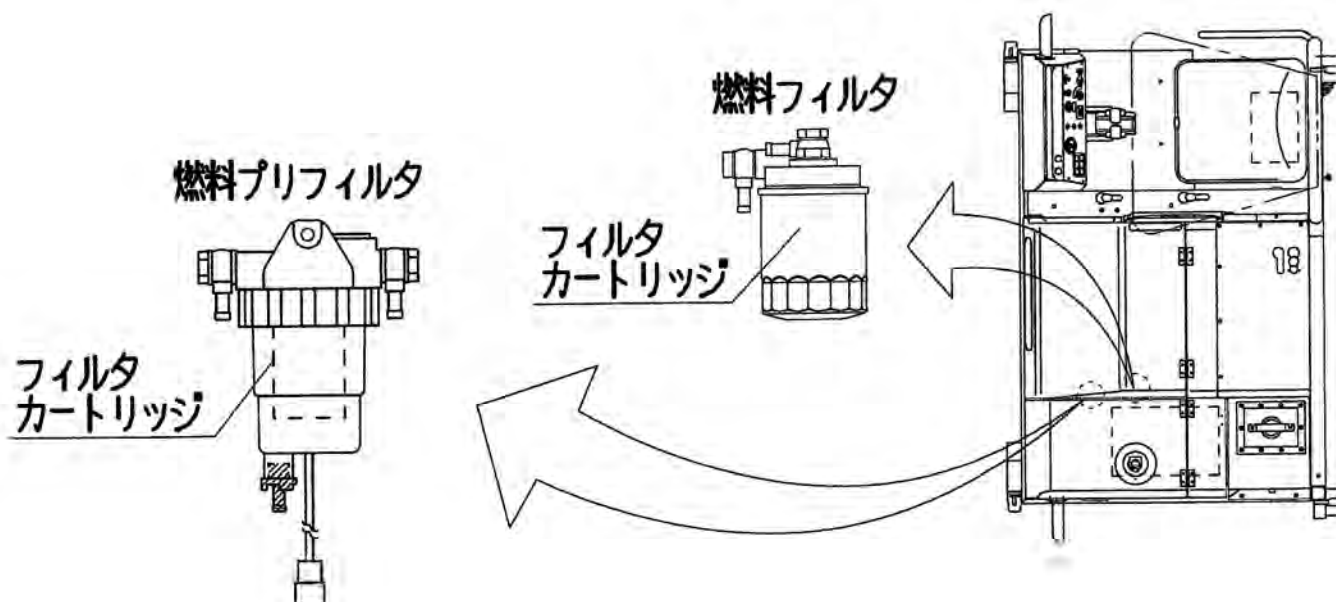
燃料に水が混入すると、エンジン不調・故障の原因になります。
100時間毎に燃料フィルタ下部のドレンコックをゆるめて水抜きをしてください。



燃料フィルタ（メイン、プリ）

交換：400時間毎

ゴミが混入すると、エンジン不調・故障の原因になります。
フィルタカートリッジは400時間毎に交換してください。



エンジンオイル 点検：作業前毎 交換：初回50時間、200時間毎または1年毎

エンジンの性能・寿命に大きな影響がありますので、必ず指定のエンジンオイルを使ってください。交換は200時間毎（または1年毎の早い方）にします。

新車は初回50時間使用後に交換します。

エンジンオイルには

「シェル リムラ R5LE 10W30」 を使用して下さい。

[取扱いの注意]

- ・ 排出ガス規制対応エンジンは、様々な新技術を取入れ規制値を満足するよう開発されています。
上記エンジンオイル以外を使用した場合、DPF 装置やエンジン性能に悪影響を与え、故障の原因になります。
また、国内排ガス規制に適合しなくなるおそれがあります。

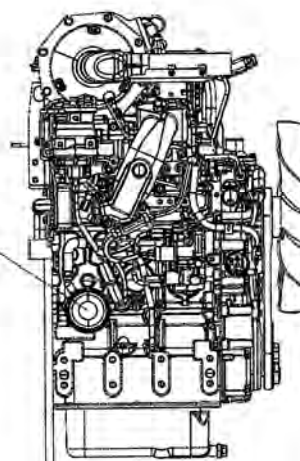
エンジンオイルフィルタ

交換：初回50時間、400時間毎

オイルフィルタカートリッジを400時間毎に交換します。

新車は初回50時間使用後に交換します。

エンジンオイル
フィルタ



冷却水（ロングライフクーラント）

点検：作業前毎 交換：2年毎

本機納入時は、凍結温度 -25°C 相当の混合比のロングライフクーラント（LLC）を入れてあります。交換の時は、使用地域の最低気温に見合った混合比のロングライフクーラントを使用してください。水量はリザーブタンクの2本の線の間であれば適量です。

ロングライフクーラントは2年毎に交換してください。

エアクリーナ

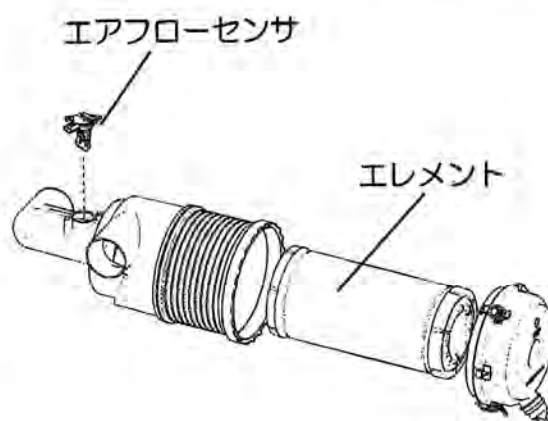
点検：作業前毎 清掃：100時間毎 交換：400時間毎

取付の緩み、またエアもれがないか点検してください。目詰まりすると、エンジン不調・故障の原因になります。

100時間毎にエレメントを外して清掃してください。

エレメントは400時間毎交換します。

エアフローセンサはエアクリーナより取り外さないで下さい。また、エアフローセンサを損傷させないように、センサ本体（特にセンシング部）へのエアブロー、スプレー洗浄、水洗浄は絶対に行わないでください。



エアホース

点検：作業前毎 交換：2年毎

エアもれがないか、ひび割れや損傷がないか、ホースバンドのゆるみがないか、作業前毎に点検してください。

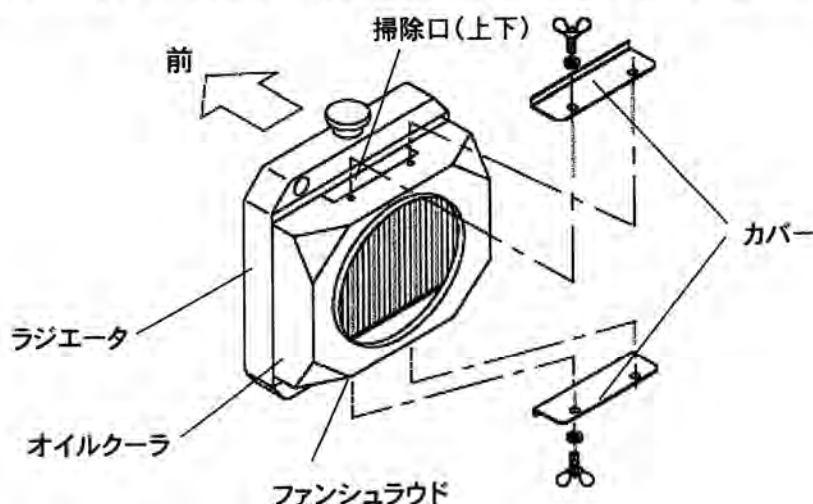
ラジエータフィンの清掃

清掃：100時間毎

ラジエータやオイルクーラフィンに泥や堆肥、枯れ草等が詰まると、空気の流れを妨げて冷却効率を異常に低下させ、オーバーヒートの原因になります。

100時間毎にエア、圧力水（低圧）により清掃してください。

なお、ラジエータとオイルクーラの間はファンシュラウドの上下掃除口を開いて清掃してください。



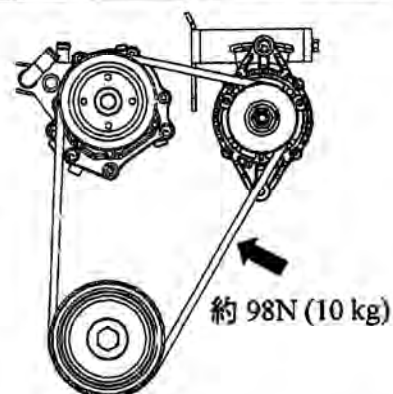
[取扱いの注意]

・乾燥した粉分の多い堆肥を散布する場合はラジエータやエアクリーナが目詰まりしやすくなります。早めに点検し、清掃してください。

ファンベルト

点検：作業前毎

クランクプーリとオルタネータプーリとの中間を指で押したとき、たわみが5～10mm（押力98N{10kgf}）になっているか点検します。
また、ベルトに摩耗や損傷がないか点検し、異常があったらベルトを交換します。



燃料ホース・ラジエータホース

点検：作業前毎 交換：2年毎

燃料もれや水もれがないか、ホースにひび割れや損傷がないか、ホースバンドのゆるみがないか、作業前毎に点検してください。
燃料がもれると、火災などの思わぬ大事故を引き起こすことになりますから注意してください。

マフラー・排気管

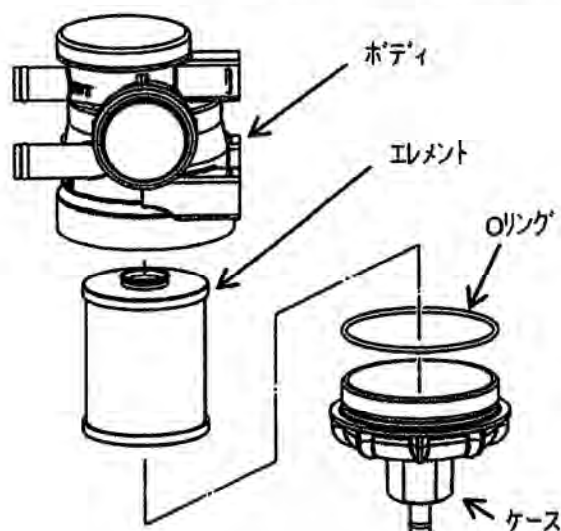
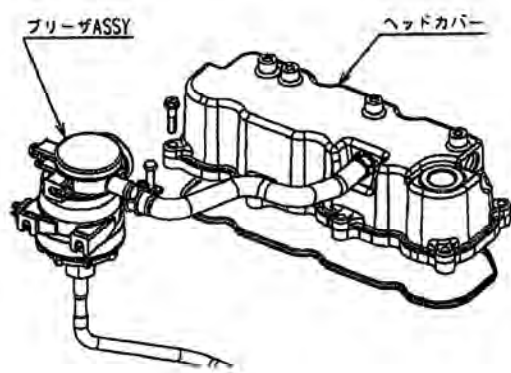
点検：作業前毎

緩みや損傷、ガスもれがないか、作業前毎に点検してください。

オイルミストセパレータフィルタ

交換：1500時間毎

フィルタエレメント
を1500時間毎に交換します。
交換はサービス工場で行ってください。



EGRクーラの内部洗浄

清掃：1500時間毎

1500時間毎に実施してください。実施しないとエンジン出力が出なくなるなどの、トラブルの原因となります。

清掃はサービス工場で実施してください。

EGR回路の点検

点検：3000時間毎

3000時間毎にEGR回路の点検を実施してください。実施しないとエンジン出力が出なくなるなどの、トラブルの原因となります。

点検はサービス工場で実施してください。

DPF の点検

点検：3000時間毎

3000時間毎にDPFの点検を実施してください。実施しないと、エンジン出力が出なくなるなどの、トラブルの原因となります。

点検はサービス工場で実施してください。

14. 給 油 脂

油脂の種類

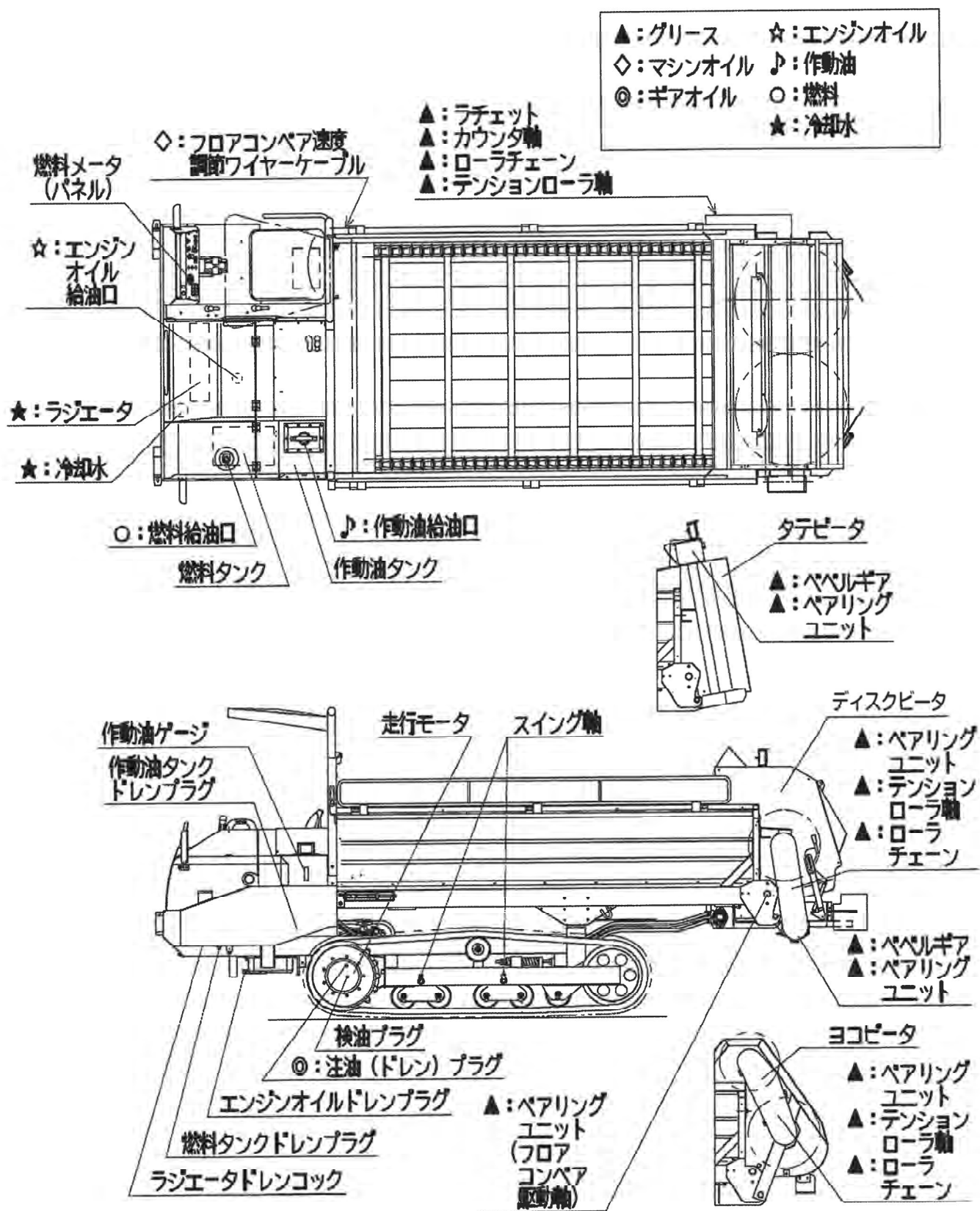
本機に使用する油脂類は次のものを推奨します。

油 脂	規 格	使用箇所および油量
▲ グリース	万能グリース	アップローラ、スイングアーム軸 ベベルギア、ラチェット、カウンタ軸 ベアリングユニット テンションローラ軸 ローラチェーン
◇ マシンオイル	マシンオイル#120	フロアコンベアアイドルスプロケット フロアコンベア速度調節ワイヤケーブル 各リンクージ
◎ ギアオイル	ギアオイル#90 GL-4	走行モータ 1. 2リットル×2
☆ エンジンオイル	エンジンオイル シェル リムラ R5LE 10W30	エンジンクランクケース 4. 3リットル
♪ 作動油	シェル テラス S2V32	作動油タンク 40リットル（全量 約47リットル）
○ 燃料	JIS2号軽油 （寒冷時は3号軽油 または特3号軽油）	燃料タンク 容量30リットル
★ 冷却水	水道水、 ロングライフクーラント （最低気温に応じた混合比）	ラジエータ、リザーブタンク 全量 約7.0リットル （キャビンアタッチメント付き 約8.0リットル）

[取扱いの注意]

- ・アクセルレバー根元の摩擦板には注油しないでください。
- ・グリースニップルは、布等でドロ等をぬぐってから給脂してください。
- ・走行モータは、検油プラグが真右になる位置にし、検油プラグからあふれるまで給油してください。
- ・交換した油脂類をむやみに投棄すると公害の原因になります。処分は、専門の業者に依頼するか、油脂購入先にご相談ください。

給油脂箇所



15. 点検整備基準

作業条件が悪い場合は、規定の時間より早めに点検整備をしてください。

○：点検・調整 ●：交換 △：補給 □：清掃

作業内容		時 期								備 考
		作業前 毎	作業後 毎	20時 間 毎	50時 間 毎	100時 間 毎	200時 間 毎	400時 間 毎	500時 間 毎	
機 体 部	ボルト、ナットのゆるみ							○		新車初回 5～10 時間
	車体の損傷	○								
	油もれ、水もれの有無	○								
	油圧ホースの損傷	○								2年毎交換
	燃料ホースの損傷、ゆるみ	○								2年毎交換
	ラジエータホースの損傷	○								2年毎交換
	エアクリーナの取付、エアもれ	○								
	エアホースの損傷、エアもれ	○								2年毎交換
	DPF、排気管の取付、ガスもれ	○								
	エンジン排気の状態、異音、振動	○								
	アクセルレバーの作動	○								
	ステアリングレバーの作動	○								
	副変速レバーの作動	○								
	散布レバーの作動	○								
	ローラチェーンの張り				○					新車初回 5～10 時間
	クローラの張り				○					新車初回 5～10 時間
	クローラの損傷	○								
	各ローラの動き	○								
	フロアコンベアチェーンの張り	○								
	フロアコンベアシャープピン	○								
	ビータ・フロアコンベアの作動	○								
	ファンベルトの張り	○								●摩耗・損傷あれば交換
	ラジエータフィン					□				
	燃料フィルタ水抜き（プリ）					□				
	燃料タンクの 水抜き・清掃						□ ＊			*または1年毎の早い方
	機体の洗浄		□							
給 油 脂 類	各ローラ、スイングアーム軸			△						
	各リンケージ				△					
	走行モータ減速箱							●		新車初回 100時間交換
	ローラチェーン			△						
	ラチェット、カウンタ軸			△						
	ベアリングユニット			△						

作業内容		時 期								備 考
		作業前 毎	作業後 毎	20 時間 毎	50 時間 毎	100 時間 毎	200 時間 毎	400 時間 毎	500 時間 毎	
給 油 脂 類	フロアコンベアアイドルスプロケット			△						
	ベベルギア			△						
	作動油	○							●	新車初回100時間交換
	エンジンオイル	○					● *			●新車初回50時間交換 *または1年毎の早い方
	燃料	△								
	冷却水（ロングライフクーラント）	○								●2年毎交換
フ ィ ル タ	エアクリーナエレメント					□		●		
	エンジンオイルフィルタカートリッジ							●		●新車初回50時間交換
	燃料フィルタカートリッジ（プリ）							●		
	油圧サクションフィルタ								□	
	油圧ラインフィルタエレメント								●	新車初回100時間交換
電 気 系	バッテリー電解液の量、容量									○シーズンはじめ ○シーズン中毎月
	電装品・警報ランプの作動	○								
	ワイヤーハーネスとコネクタの点検								○	サービス工場点検

1000時間以上毎の点検整備

○：点検・清掃・調整

作業内容		時 期				備 考
		1000 時間 毎	1500 時間 毎	2000 時間 毎	3000 時間 毎	
エ ン ジ ン	吸気弁・排気弁のすきま調整	○				サービス工場調整
	オイルミストセパレータのフ ィルタ交換		○			サービス工場交換
	EGRクーラの点検・洗浄		○			サービス工場交換
	EGR回路部品の清掃と点検				○	サービス工場清掃
	DPFの点検				○	サービス工場清掃

「点検整備基準」ページをコピーして点検表として利用してください。

■故障と対策

ここには、簡単な故障の原因とその対策方法を載せてあります。

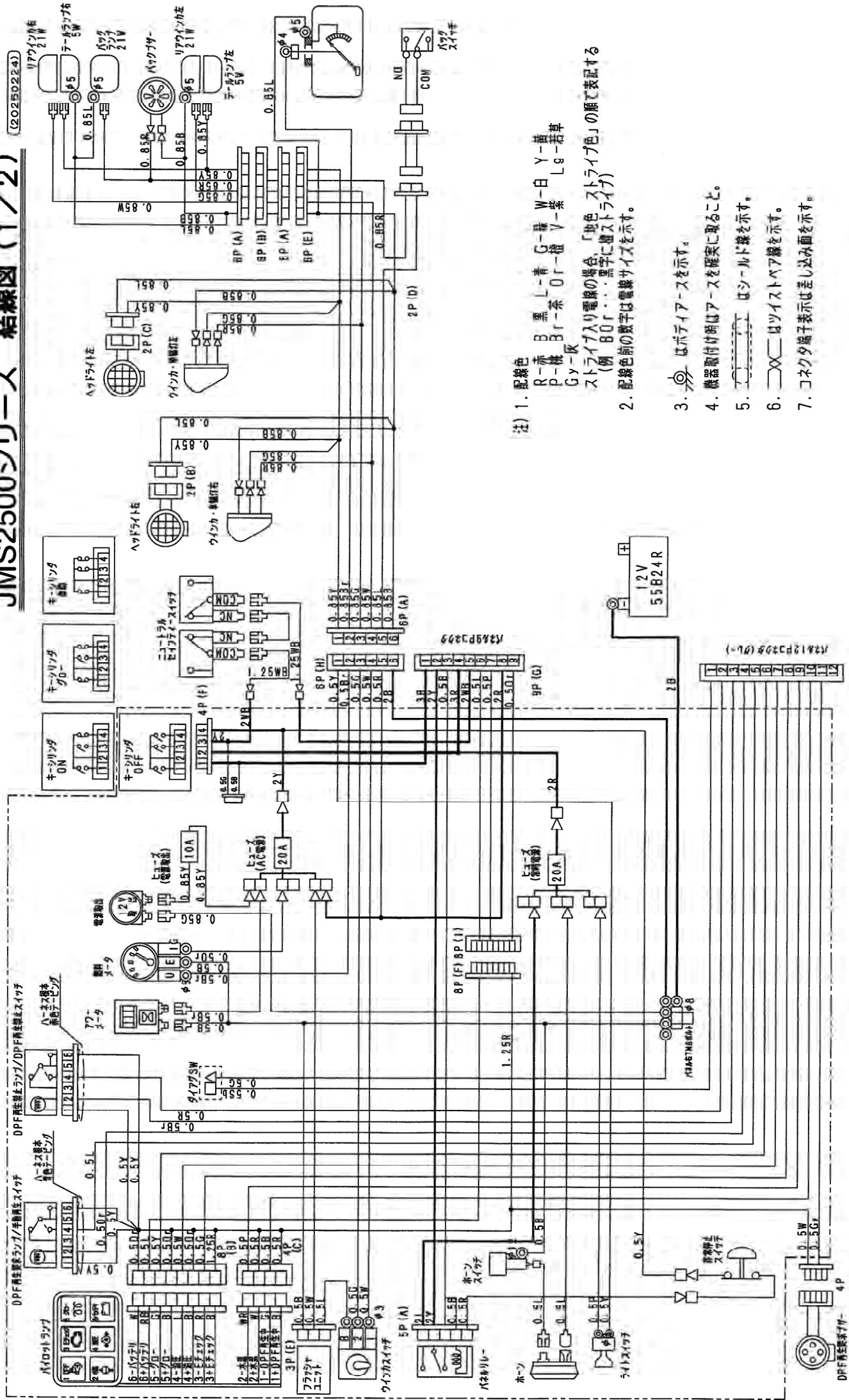
もし、機械の調子が悪い時は、この表を参考にしてください。

原因がわからない場合、対策が困難な場合は、早めにお買上げの販売店・サービス工場へご相談ください。

状 況		原 因	対 策
エ ン ジ ン 関 係	エンジンが始動しない (セルモータが回らない)	ステアリングレバーがニュートラルになっていない	ニュートラルにする
		緊急停止スイッチが「停止」になっている	非常停止スイッチ「運転」にする
		バッテリー放電	バッテリーを充電する
		セルモータ故障	サービス工場での修理
		スイッチの故障	
		電気系統の故障	
	エンジンが始動しない (セルモータは回る)	燃料切れ	燃料を補給する
		燃料の不良	新しい軽油に入れかえる
		予熱不足	サービス工場での修理
		燃料系統の故障	
		電気系統の故障	
	回転が円滑でない	燃料系統にエア混入	エア抜きをする
		燃料系統に水混入	水抜きをする
		燃料の不良	新しい軽油に入れかえる
		燃料フィルタの詰まり	フィルタを交換する
	エンジンがオーバーヒート	冷却水不足	冷却水を補給する
		ファンベルトのゆるみ	ファンベルトを張る
		ラジエータの目詰まり	清掃する
		エアクリーナの目詰まり	清掃する
		過負荷	負荷を軽くする
	エンジンが出力不足	エアクリーナの目詰まり	清掃する
		エンジン燃料系統の故障	サービス工場での修理
		過負荷	負荷を軽くする
		電気系統の故障	サービス工場での修理

状 況		原 因	対 策
走行部関係	直進しない	路面の傾き	舗装路は若干の傾斜があるため、谷側へ曲がる
		ステアリングレバー調整狂い	調整する
		油圧ポンプ、走行モータの故障	サービス工場での修理
	走行しない 左右、前後進	ステアリングレバーの操作が小さすぎる	ステアリングレバーを大きく動かす
		ステアリングリンケージの故障	サービス工場での修理
		油圧ポンプ、走行モータの故障	サービス工場での修理
	力がない	エンジン回転が低い	アクセルレバーを「高速」にする
		コンクリート路面等、摩擦の大きい路面でリリースしている	副変速を「低速」にする
		スピントーンをしている	ピボットターンにする
		過負荷	堆肥の積み込み量をへらす
		油圧ポンプ、走行モータの故障	サービス工場での修理
		電気系統の故障	
散布部関係	ビータが回らない	堆肥の積み過ぎでリリースしている	堆肥の積み込み量をへらす フロアコンベアの送りをおそくする
		ローラチェーンが破損している	修理、部品交換する
		ベベルギアが破損している	部品交換する
		油圧ポンプ、コントロールバルブ、油圧モータの故障	サービス工場での修理
	フロアコンベアが動かない	送りが「0」になっている	「1」～「3」にする
		シャープピンが切れている	交換する
		ローラチェーンが破損している	修理、部品交換する
		変速ワイヤの調整不良、破損	調整、交換する
	フロアコンベア速度がばらつく	フロアコンベアギアボックスの調整不良	調整する
		過負荷	堆肥の積み込み量をへらす 送りをおそくする

JMS2500シリーズ 結線図 (1/2)



注) 1. 配線色

R-赤 B-黒 L-青 G-緑 W-白 Y-黄
P-橙 Br-茶 O-橙 V-紫 Lg-若草
Gy-灰

ストライプ入り電線の場合、「地色ストライプ色」の順で表記する
(例 BOr...黒字に地ストライプ)

2. 配線色の数字は電線サイズを示す。

3. はポテアースを示す。

4. 機器取付け時はアースを確実に取ること。

5. はシールド線を示す。

6. はツイストペア線を示す。

7. コネクタ端子表示は差し込み面を示す。

調 整

S-250701A

千 歳 本 社 066-8555 千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千 歳 営 業 所 066-8555 千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

豊 富 営 業 所 098-4100 天 塩 郡 豊 富 町 字 上 サ ロ ベ ッ 1 1 9 1 番 地 4 4
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯 広 営 業 所 080-2462 帯 広 市 西 2 2 条 北 1 丁 目 1 2 番 地 4
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

中 標 津 営 業 所 086-1152 標 津 郡 中 標 津 町 北 町 2 丁 目 1 6 番 2
TEL 0153-72-2624
FAX 0153-73-2540

花 巻 営 業 所 028-3172 岩 手 県 花 巻 市 石 鳥 谷 町 北 寺 林 第 1 1 地 割 1 2 0 番 3
TEL 0198-46-1311
FAX 0198-45-5999

仙 台 営 業 所 984-0032 宮 城 県 仙 台 市 若 林 区 荒 井 5 丁 目 2 1 - 1
TEL 022-353-6039
FAX 022-353-6040

小 山 営 業 所 323-0158 栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

東 海 営 業 所 485-0081 愛 知 県 小 牧 市 横 内 字 立 野 6 7 8 - 1
TEL 0568-75-3561
FAX 0568-75-3563

岡 山 営 業 所 700-0973 岡 山 県 岡 山 市 北 区 下 中 野 7 0 4 - 1 0 3
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊 本 営 業 所 861-8030 熊 本 県 熊 本 市 東 区 小 山 町 1 6 3 9 - 1
TEL 096-389-6650
FAX 096-389-6710

都 城 営 業 所 885-1202 宮 崎 県 都 城 市 高 城 町 穂 満 坊 1 0 0 3 - 2
TEL 0986-53-2222
FAX 0986-53-2233